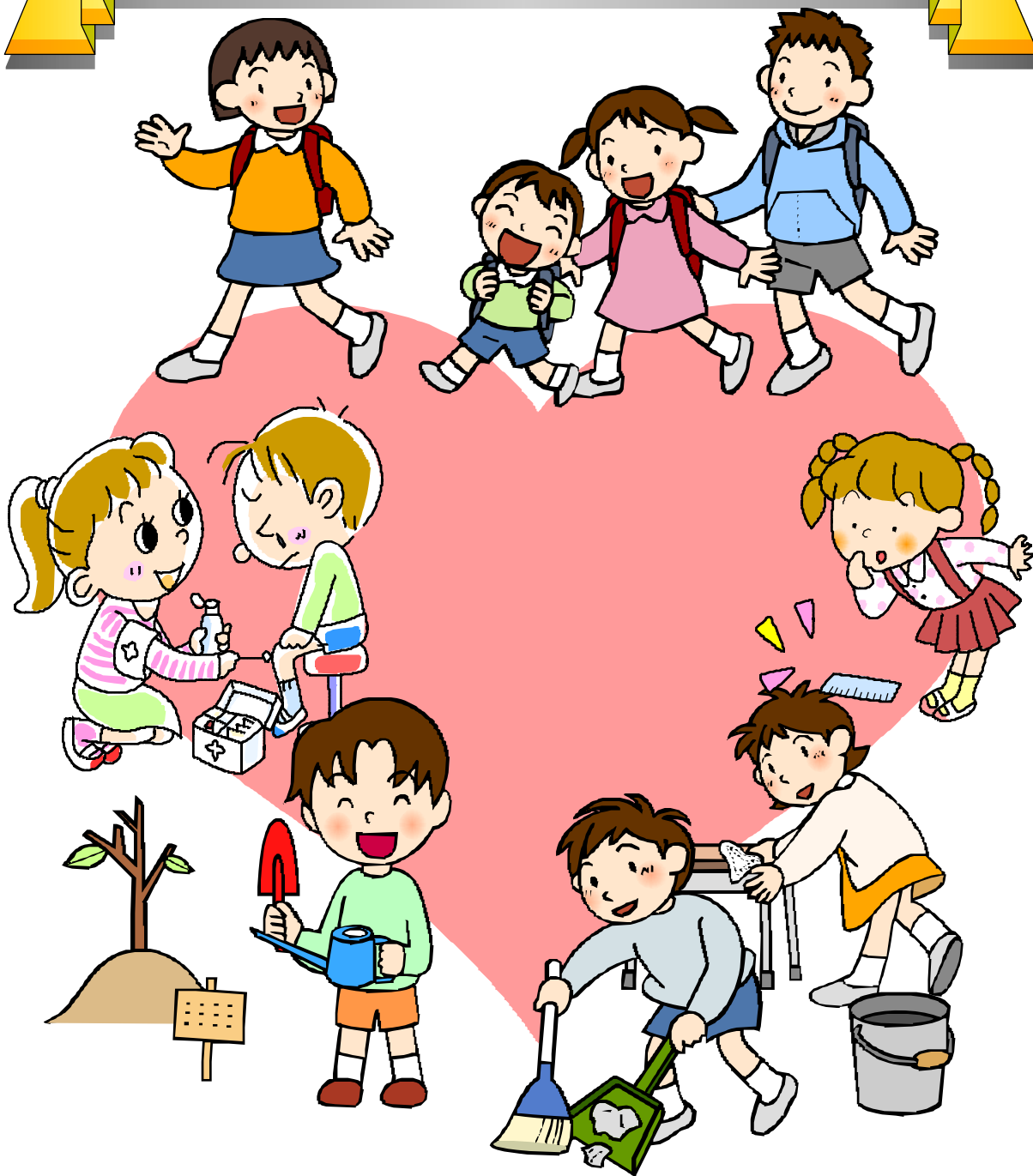
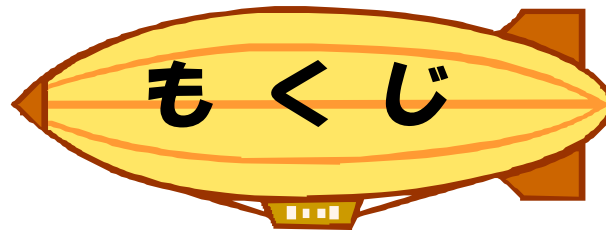


自尊感情を育むために



学校編



第1章 基本的な考え方

- (1) 自尊感情とは
- (2) 自尊感情を育む観点・方法

第2章 日常的な生活における実践

- (1) 自尊感情を育む視点
- (2) 自尊感情を育む活動例

第3章 授業における実践

- (1) 自尊感情を育む道德教育の活用例
 - ・ 自尊感情を育む道德ユニット
 - ・ 道德ユニットの組み方
 - ・ 略案の作成
- (2) 道德の時間の学習指導過程と指導方法の工夫

第4章 参考資料集

- (1) 自尊感情を育む道德教育の関連表
- (2) 自尊感情を育むユニットの構成図
- (3) 道德ユニットの資料集
- (4) データ集(CD-ROM)

別冊

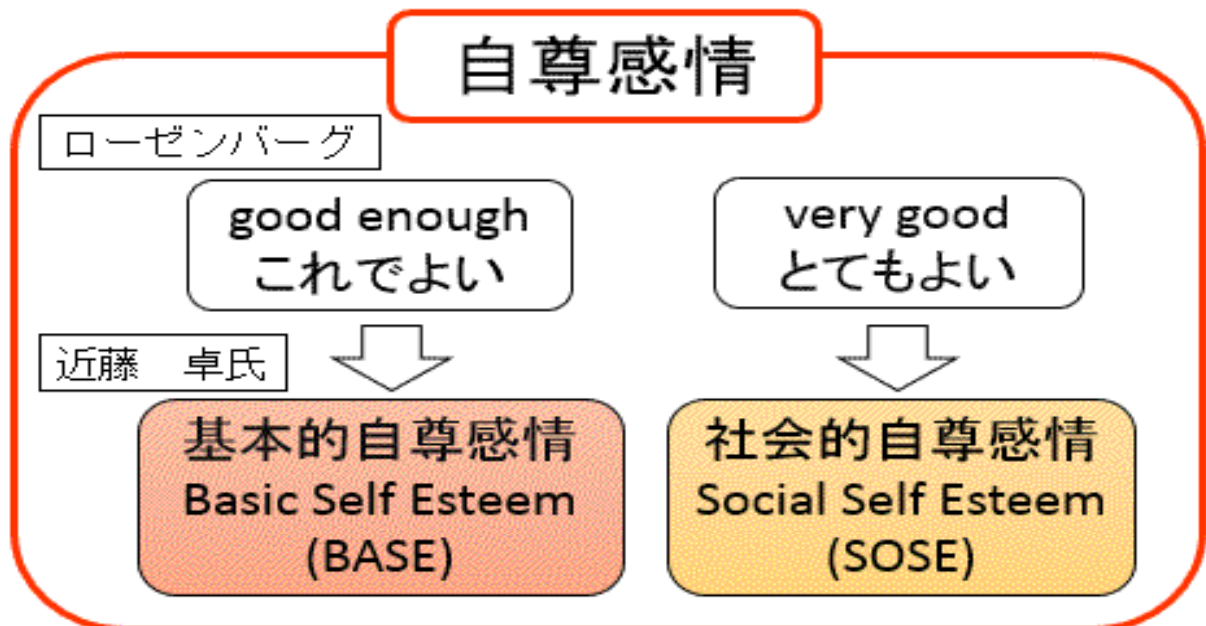
- (1) 道德学習指導案
- (2) 道德ユニットの略案
- (3) 道德ユニットのワークシート集



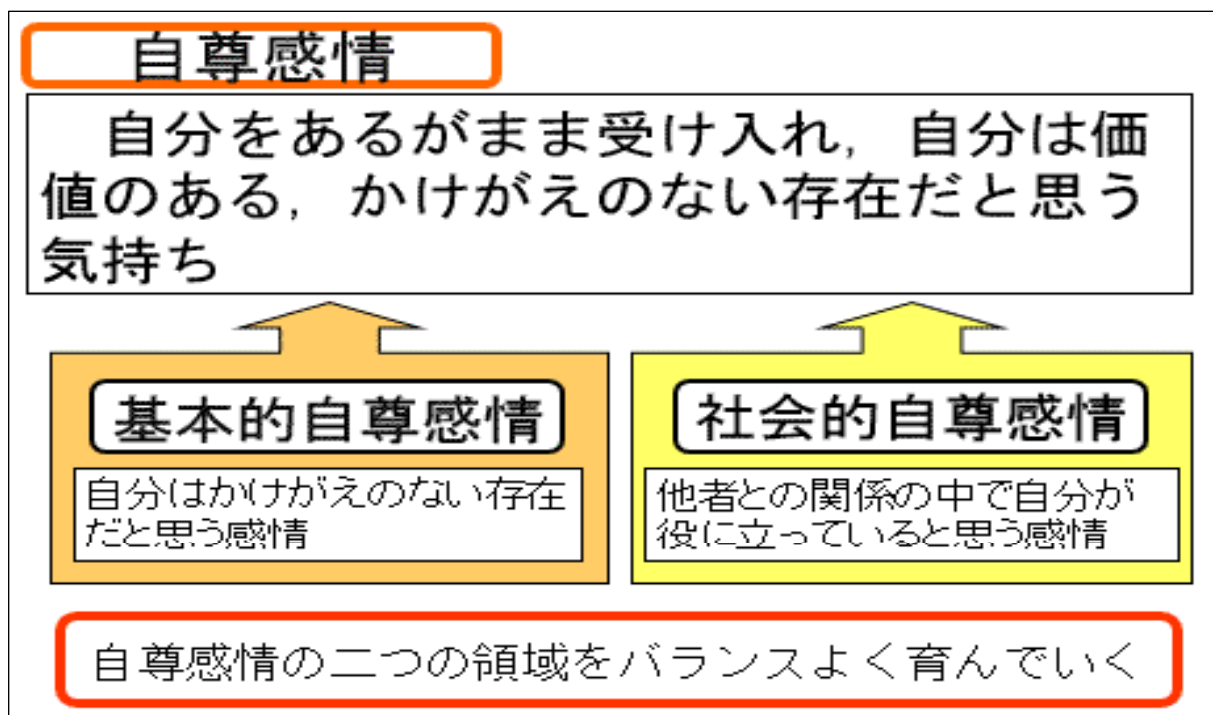
第1章 基本的な考え方

(1) 自尊心とは

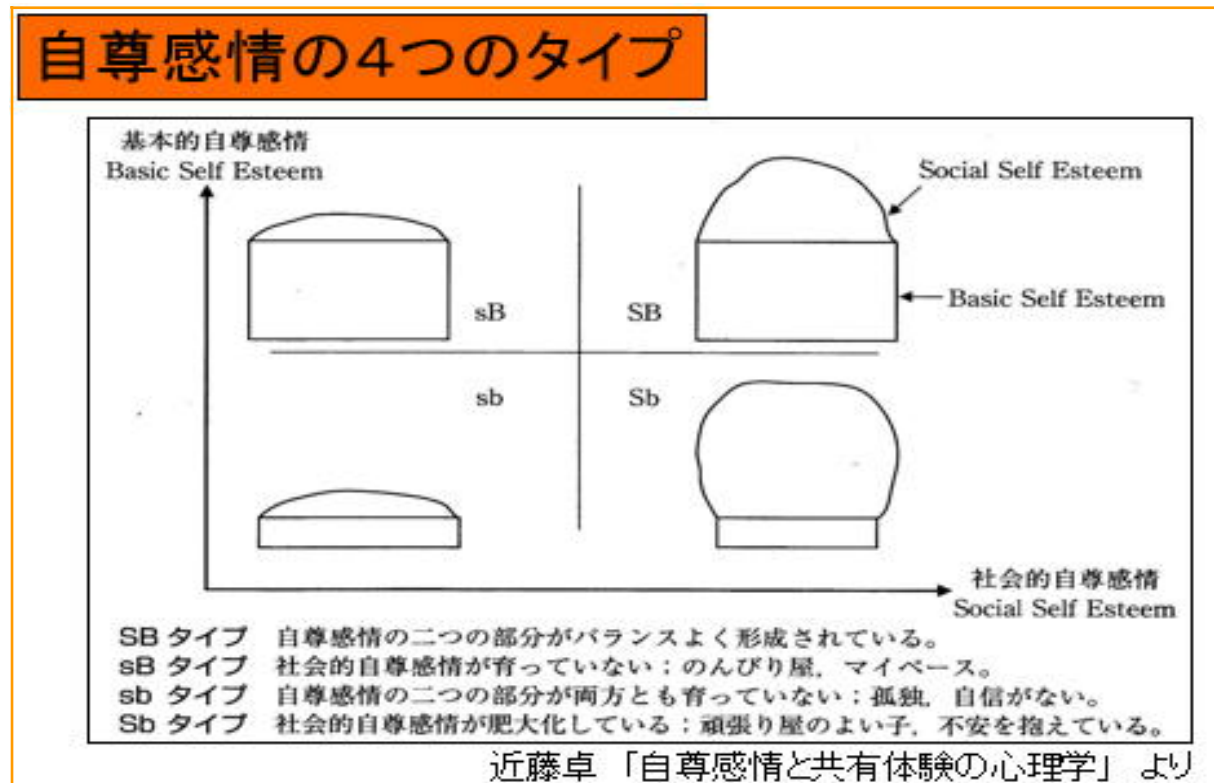
自尊感情は「基本的自尊感情」と「社会的自尊感情」の組合せによって成り立っているとされている。



基本的自尊感情…成功や優越とは無関係の感情で、あるがままの自分を受け入れ、大切な存在として尊重する感情
社会的自尊感情…他者との比較による相対的な優劣による感情で、認められ見つめられることによって育つ感情



近藤氏の著書では、自尊感情を四つのタイプに分類している。



基本的自尊感情…一度形成されると成長や環境・状況の変化によって影響を受けにくい感情

社会的自尊感情…場面や状況に支配される。

このことから学年が上がるにつれて低下する自尊感情は、社会的自尊感情だと考えられる。しかし、基本的自尊感情が育まれていれば、自分はかけがえのない存在であるという思いは残るが、基本的自尊感情が育まれていないと自尊感情が低い状態になってしまう。

一般的に高学年児童は自尊感情が低くなる傾向にあり、s b の状態と考えられる児童が見られる。低学年の自尊感情が高く見えてもS b の可能性が考えられることから、低学年からの基本的自尊感情を育む指導が必要であると考ええる。

(2) 自尊感情を育む観点・方法

＜児童の自尊感情を指導する観点＞

「自分はかけがえのない存在だと思ふ感情」

「他者との関係の中で自分が役に立っていると思ふ感情」

基本的自尊感情…共感・教師からなる共有体験によって少しずつ育まれる。共有体験が好ましいと自己評価された時に自己肯定感が生まれ、自己受容を深めていく。

社会的自尊感情…他者からの称賛・承認によって育まれる。

基本的自尊感情

自己受容感

自己肯定感

自己評価

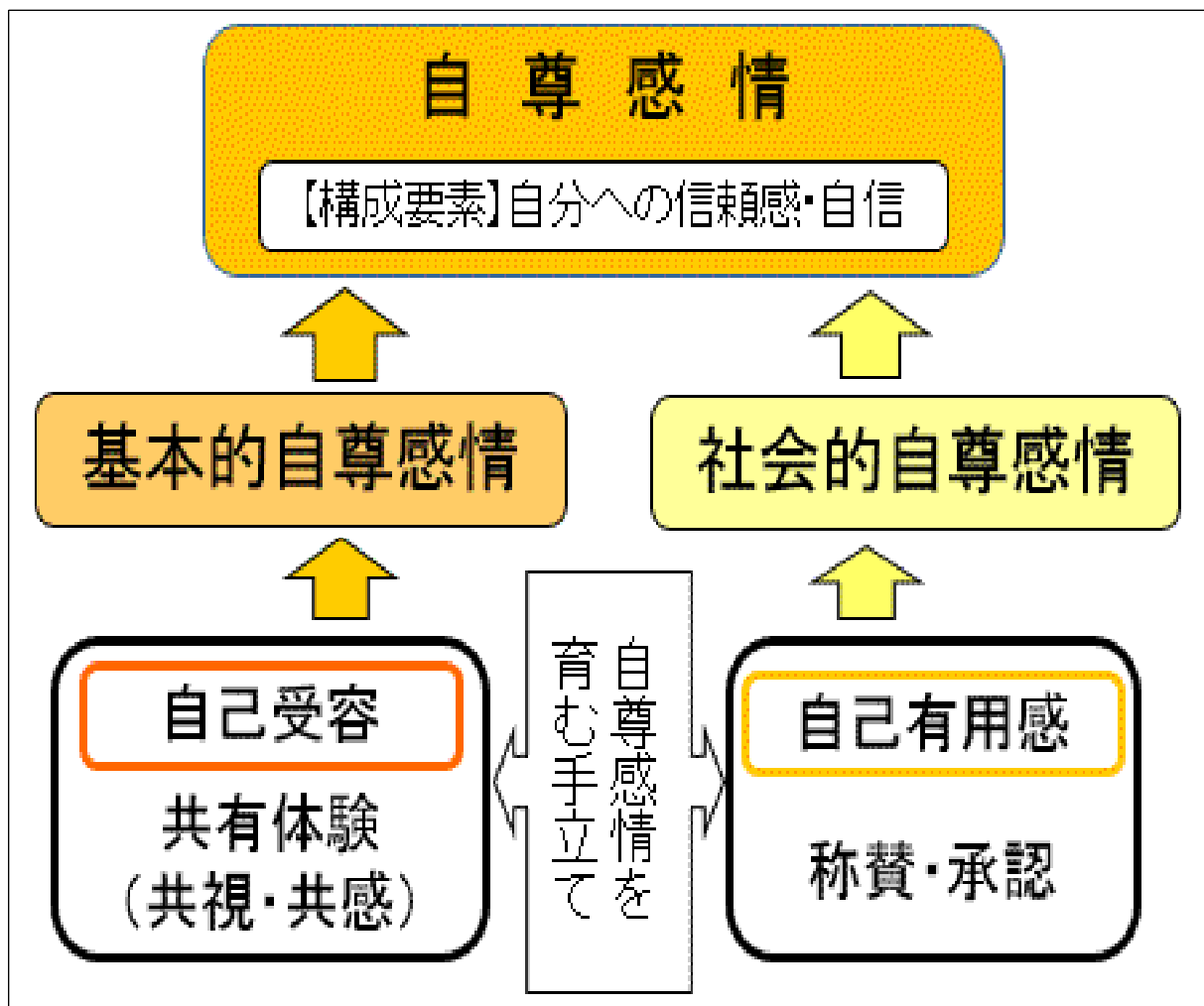
＜共有体験とは＞

近藤氏によると、基本的自尊感情を育む「体験の共有」と「体験の共感」からなる体験で信頼できる他者と並んで何かを見た時に、言葉や動作によって感情を交流させることで体験できるとしている。

うまくいっても失敗しても、同じ目的を持って共に時間を過ごし、歩んだ体験は、基本的自尊感情を育むための大切な共有体験になる。

共 視 … 2人で並んで同じ方向を見つめること。
児童にとって身近な他者である家族や友達、教師、地域の人と並んで何かを見る体験。

共 感 … 授業で分かった時の思いや、共視によって得られた発見・感想を隣の友達と共有すること。



第2章 日常的な生活における実践

(3) 自尊心を育むための視点

一人一人のよさを生かし、自分を価値ある存在として認められるようにするための視点

決めつける

「Aさんは消極的だから
班長は無理だな・・・。」



可能性を広げる

「Aさんに班長を任せたら自信が
つくのでは・・・。」

一方的な叱責

「Bくんは居眠りばかり。
やる気はあるのか！」



関わる

「大丈夫？眠そうだね。何か心配なこ
とがあって眠れなかったのかな？」

批判的

「できないだろうな。」



よさを見付ける

「音読が上手になったね。家でも練習
を頑張っているようでうれしいよ。」

ほめない

「掃除するのが当たり
前。」



ほめる・認める

「掃除の仕方が丁寧だね。おかげで
とても気持ちよく過ごせるよ。」

あきらめ

「また遅刻か。指導し
ても減らないな。」



はげます

「今月は遅刻が3回だったね。来月
はもっと減らせると思うよ。」

廊下は走るな！



廊下は歩きましょう。



プラスの行動をイメージできる言葉かけ

自尊感情を育む活動例

◇ 日常の生活の中でできる活動や短時間でできる活動を掲載していますので、活用してください。

それは偉い！ 毎日続けていることを学級全員が知り合い、認め合う。	1 各自が毎日続けていることを一人一人発表する。 2 友達の発表を目と耳で聴いてから、「それは偉い！」とみんなで言う。 3 全員の発表を1～3周したら、気付いたことや心に浮かんだことを発表する。
きっとできる！ 互いに理解し合うことで目標に向かって頑張ろうとする学級の雰囲気を作る。	1 各自がこれからの目標を一人一人発表する。 2 友達の発表を目と耳で聴いてから、「きっとできる！」とみんなで言う。 3 全員の発表を1～3周したら、気付いたことや心に浮かんだことを発表する。
〇〇さんはすごいな 友達のよさやすばらしさを表現させ、他者理解を深める。	1 ワークシートに友達のすごいと思うところと、その理由を書く。（書いてもらえない児童がいないように配慮する。） 2 友達の発表を目と耳で聴く。教師は一人一人に受容的なコメントを言う。 3 ワークシートは書かれた友達に渡す。 4 全員の発表が終わったら、感想を発表する。
今日できるようになったこと 自らの成長を友達に認めてもらうことで、自己肯定感を高める。	1 帰りの会で「今日できるようになったこと」や「頑張ったこと」を発表する。 2 友達の発表を目と耳で聴く。 3 児童は拍手をする。教師は学校やクラスの目標などに触れながら一人一人に受容的なコメントをする。
こころの木コーナー 友達のよさやすばらしさを表現させ、他者理解を深める。	1 友達の優しい姿や頑張っている姿に気付いたら葉型の用紙に書く。 2 朝の会や帰りの会の時に、書いた人が発表する。 3 教師は一人一人に受容的なコメントを言う。

第3章 授業における実践

自尊感情を育む道徳教育の活用例

本事例集には、小学校第1学年において、児童が自己受容を深め、自己有用感を高める道徳教育の取組についてまとめたものを掲載しました。ここでは、基本的な内容や道徳ユニットの組み方を示し、自尊感情を育む道徳教育の流れを説明します。学級や家庭で日常的に活用できるものを目指し、編集や修正を容易にするためデータを添付していますので、是非ご活用ください。

自尊感情を育む道徳ユニット

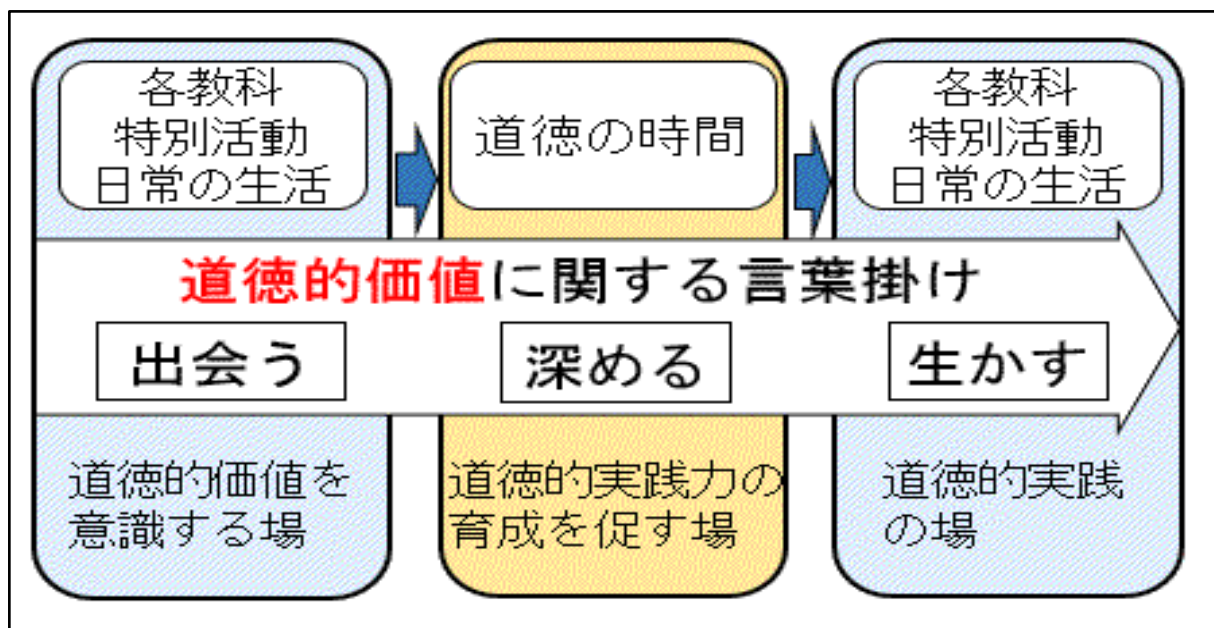
自尊感情を育むための道徳教育の内容項目の組み合わせ

自尊感情を育む観点	育みたい児童の思い	内 容 項 目
自己受容	がんばってよかった。	1-(2) 勤勉努力
自己有用感	できるようになると楽しいな。	個性の伸長
	自分はいいところがあるよ。	
自己有用感	友達といっしょだと楽しいな。	2-(3) 友情
	みんなは自分を認めてくれるよ。	
	自分は役に立っているよ。	
自己受容	自分は大切に思われているよ。	4-(2) 勤労
自己有用感	自分にもできることがあるよ。	4-(3) 家族愛
	自分は役に立っているよ。	

【自尊感情を育むための道徳教育の内容項目】

1-(2) 勤勉努力, 2-(3) 友情, 4-(2) 勤労, 4-(3) 家族愛

ユニット構造図



道徳の時間を中心に道徳的価値に関連する各教科等の内容や体験活動等を関連表から抽出し、道徳の授業の事前、事後に結び付け、一つのユニットとして短期的に捉えて構成します。

道徳ユニットを組むメリット

ここでは、道徳の時間を中心に重点化した内容項目で各授業を結び付けるユニット学習の組み方を紹介します。各教科等の内容や体験活動等を道徳の授業の事前、事後に結び付け、図のように一つのユニットとして短期的に捉えて構成します。

道徳ユニットでは、道徳的価値を身に付けることによって自尊感情を育むことをねらいとし、道徳的価値に「出会う」、「深める」、「生かす」という三つの学習過程を一つのユニットとして位置付け、児童の意識を連続させます。そこで、道徳ユニットの構成として、道徳の時間の事前に道徳的価値を意識する場、道徳の時間で道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深めて道徳的実践力の育成を促す場、事後で道徳的実践を行う場を設けています。

道徳ユニットは、道徳の授業を中心に据えることで教師や児童にとって道徳的価値が曖昧になることを防ぎ、価値の内容や自己との関わりについての考えを効果的に深めることができると考えます。指導に際しては、関連させた各教科等と道徳の時間の意識を継続させるため、道徳的価値を意識した言葉掛けをして価値に迫りやすくし、道徳ユニットを通して道徳性の育成を図ります。

道徳ユニットの組み方

- ① 道徳ユニットで学習する道徳教育の内容項目を決める。
- ② 道徳の時間の資料等を決める。
- ③ 道徳の時間の前後に組み合わせる各教科等の道徳教育の内容を決める。

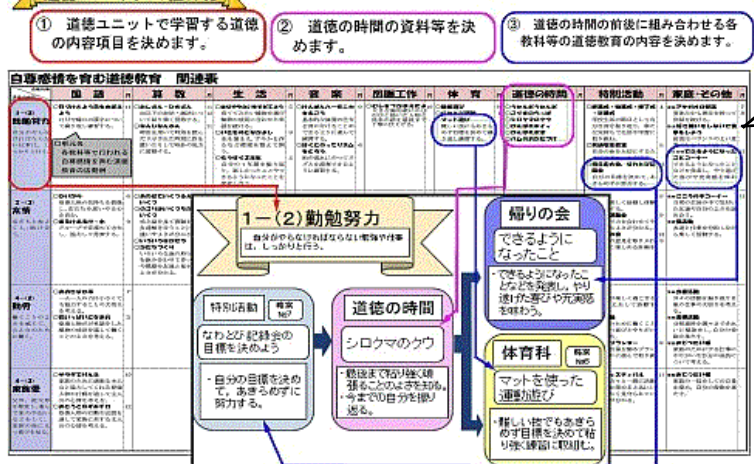
本研究で作成した第1学年の自尊感情を育む道徳教育の関連表から、道徳ユニットを作成します。

自尊感情を育む道徳教育 関連表

道徳教育の内容項目	国語	算数	生活	音楽	図画工作	体育	道徳の時間	特別活動	家庭・その他
1-① 動機努力	国語の授業で、自分の考えを表現する機会を設ける。また、相手の考えを尊重する態度を育てる。	算数の授業で、自分の考えを表現する機会を設ける。また、相手の考えを尊重する態度を育てる。	生活の授業で、自分の考えを表現する機会を設ける。また、相手の考えを尊重する態度を育てる。	音楽の授業で、自分の考えを表現する機会を設ける。また、相手の考えを尊重する態度を育てる。	図画工作の授業で、自分の考えを表現する機会を設ける。また、相手の考えを尊重する態度を育てる。	体育の授業で、自分の考えを表現する機会を設ける。また、相手の考えを尊重する態度を育てる。	道徳の時間の授業で、自分の考えを表現する機会を設ける。また、相手の考えを尊重する態度を育てる。	特別活動の授業で、自分の考えを表現する機会を設ける。また、相手の考えを尊重する態度を育てる。	家庭・その他の授業で、自分の考えを表現する機会を設ける。また、相手の考えを尊重する態度を育てる。
2-② 友誼	国語の授業で、自分の考えを表現する機会を設ける。また、相手の考えを尊重する態度を育てる。	算数の授業で、自分の考えを表現する機会を設ける。また、相手の考えを尊重する態度を育てる。	生活の授業で、自分の考えを表現する機会を設ける。また、相手の考えを尊重する態度を育てる。	音楽の授業で、自分の考えを表現する機会を設ける。また、相手の考えを尊重する態度を育てる。	図画工作の授業で、自分の考えを表現する機会を設ける。また、相手の考えを尊重する態度を育てる。	体育の授業で、自分の考えを表現する機会を設ける。また、相手の考えを尊重する態度を育てる。	道徳の時間の授業で、自分の考えを表現する機会を設ける。また、相手の考えを尊重する態度を育てる。	特別活動の授業で、自分の考えを表現する機会を設ける。また、相手の考えを尊重する態度を育てる。	家庭・その他の授業で、自分の考えを表現する機会を設ける。また、相手の考えを尊重する態度を育てる。
4-③ 家族愛	国語の授業で、自分の考えを表現する機会を設ける。また、相手の考えを尊重する態度を育てる。	算数の授業で、自分の考えを表現する機会を設ける。また、相手の考えを尊重する態度を育てる。	生活の授業で、自分の考えを表現する機会を設ける。また、相手の考えを尊重する態度を育てる。	音楽の授業で、自分の考えを表現する機会を設ける。また、相手の考えを尊重する態度を育てる。	図画工作の授業で、自分の考えを表現する機会を設ける。また、相手の考えを尊重する態度を育てる。	体育の授業で、自分の考えを表現する機会を設ける。また、相手の考えを尊重する態度を育てる。	道徳の時間の授業で、自分の考えを表現する機会を設ける。また、相手の考えを尊重する態度を育てる。	特別活動の授業で、自分の考えを表現する機会を設ける。また、相手の考えを尊重する態度を育てる。	家庭・その他の授業で、自分の考えを表現する機会を設ける。また、相手の考えを尊重する態度を育てる。

事例集はデータがありますので、他学年の関連表を作成することもできます。

道徳ユニットの組み方



道徳ユニットの作成はデータを選択し、枠に貼り付けることができます。

略案の作成

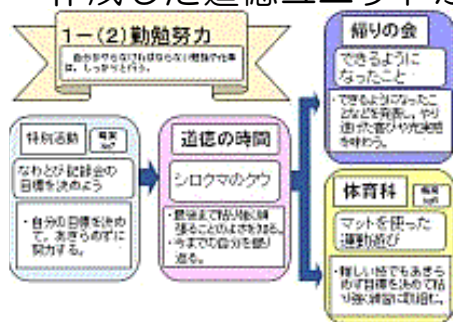
① 道徳ユニットの教科，単元，単元の目標，本時の道徳教育の内容項目，指導時期等を略案の用紙に記入する。

② 本時の自己受容を育む共有体験活動に○を付ける。

③ 本時の主な学習活動の流れを書く。

④ 自尊感情を育む観点一覧表から本時に関連のある観点を取り出して記入する。

作成した道徳ユニットから，各授業等の略案を立てます。



＜基本的自尊感情(B)＞

「自分はかけがえのない存在だと思う感情」

＜社会的自尊感情(S)＞

「他者との関係の中で自分が役に立っていると思う感情」

自尊感情を育む観点一覧表を参考にしてください。

自尊感情を育むための観点一覧表		自己受容【基本的自尊感情】 B (BASE)	自己有用感【社会的自尊感情】 S (SOSE)
道徳的価値	道徳的価値		
1-2 勤勉努力	1-2 勤勉努力	1. 粘り強く取り組む態度 2. 成果の獲得自己理解 3. 所属感	1. 自分たちで決まりを決めて活動し，それを守って行動しようとする態度を認めるようにする。 2. 新しくできるようになったり，繰り返し努力して取り組んだりしたことを認めるようにする。 3. 友達のためにできることや頑張れることを考え，実行できたことを認めるようにする。
2-3 友情	2-3 友情	4. 友達との学び合い他者理解 5. 友達や教師からの評価所属感	4. 友達と協力し合うことで，楽しくよりよい生活が送れること，様々な人と関わり合いながら生活していることに気付くことができるようにする。 5. 教師や友達からの評価をもらうことで自分が周りの人の役に立っていることを認識できるようにする。
4-2 勤労	4-2 勤労	6. 他者への貢献 7. 家族への感謝	6. 他者と協力し合うことで，楽しくよりよい生活が送れること，様々な人と関わり合いながら生活していることに気付くことができるようにする。 7. 自分たちが決まりを決めて活動し，それを守って行動できるようにする。
4-3 家族愛	4-3 家族愛	8. 所属感	8. 家庭での平穏い実生活を送ることで，自分が家族の役に立っていることを認識できるようにする。

[illegible]

自尊心を育む
観点は、データを
選択し、貼り付け
ることができま
す。

① 道徳ユニット
の教科、単元、
単元の目標、本
時の道徳教育の
内容項目、指導
時期を記入す
る。

② 本時の自己受容を育む共有体験活動に○を付ける。

③ 本時の主な学習活動の流れを書く。

④ 自尊感情を育むための観点—
覧表から本時に
関連のある観点
を取り出し、貼
り付ける。

略案は板書計画を
かく欄もありますの
でご利用ください。

座席	氏名	共有体験活動の形態	自己受容を育む場・手立て
1	山本 太郎	家族と一緒に遊び、自分でできることや家族が得意なことを見付け、家族と一緒にして自分の役割を果たそうとすることが出来る。	自身感情を育む場・手立て B1 怒り強く取り組む経験 B2 自己理解 B3 所属感を味わう経験 S1 自己受容 S2 成実の発揮 S3 仲間意識
2	佐藤 花子	家族と一緒に遊び、自分でできることや家族が得意なことを見付け、家族と一緒にして自分の役割を果たそうとすることが出来る。	自身感情を育む場・手立て B1 怒り強く取り組む経験 B2 自己理解 B3 所属感を味わう経験 S1 自己受容 S2 成実の発揮 S3 仲間意識
3	田中 健一	家族と一緒に遊び、自分でできることや家族が得意なことを見付け、家族と一緒にして自分の役割を果たそうとすることが出来る。	自身感情を育む場・手立て B1 怒り強く取り組む経験 B2 自己理解 B3 所属感を味わう経験 S1 自己受容 S2 成実の発揮 S3 仲間意識
4	鈴木 美咲	家族と一緒に遊び、自分でできることや家族が得意なことを見付け、家族と一緒にして自分の役割を果たそうとすることが出来る。	自身感情を育む場・手立て B1 怒り強く取り組む経験 B2 自己理解 B3 所属感を味わう経験 S1 自己受容 S2 成実の発揮 S3 仲間意識

【事後活動】
これまでの家庭で「ふゆやすみのす」を実践する上での課題とし、結果はおてつだい欄に記入させる。
多休みが終わったら、自分の平仮名の反省をし、家風にコメントを書きつける。

【板書計画】
おしょうがつをじかへつ。わくまえる。おしょうがつ＝あたりらしいし。たのしみなこと。

道徳の時間の学習指導過程と指導方法の工夫

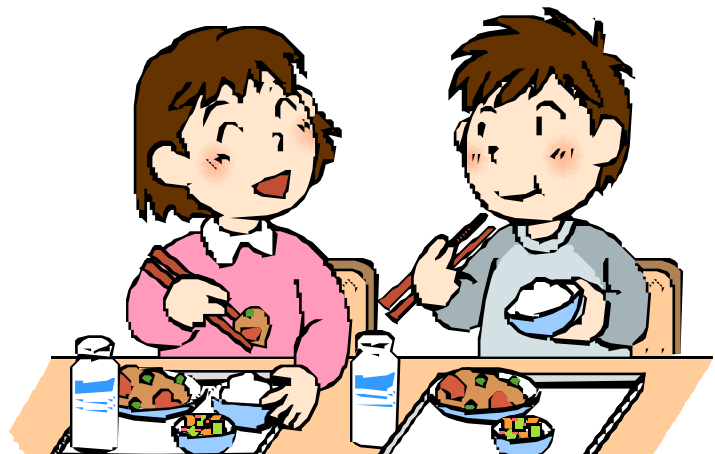
段階		学習指導過程の工夫	指導方法の工夫
展開段階	導入	○ねらいとする価値や資料への方向付け ・ねらいとする価値に気付く。	○ねらいとする価値に気付く意識調査等の提示の工夫 ・意識調査表の活用 ・体験的場面の提示（児童の体験を問う） ・雰囲気作り
	高め	○資料を通してのねらいとする道徳的価値の追求・把握 ・資料を通して、今までの道徳的価値の自覚を深める。	○共有体験を実感するために、学習形態を工夫する ・体験の共有（共視） ・感情の共有（共感） ○資料の提示を工夫する ・写真の提示、小道具活用の工夫。 ・体験活動に含まれる道徳的価値を一層深め、いろいろな角度から見ることのできる資料を選定する。 ○資料を基にした話し合いにおいて、体験活動で感じたことや考えたことを生かす ア 道徳的価値の自覚を促す発問の工夫 イ 中心人物の気持ちに迫る表現活動の工夫と場の設定 ・動作的表現（動作化、役割演技、疑似体験や追体験等） ・映像的表現（心情図、表情図、心情曲線等） ・話し合いの形態の工夫（個別、ペア、グループ、全体） ・言語的表現（吹き出し、手紙、作文、討論、対話等） ○中心人物の生き方を追求する中で自己の体験と重ねて共感を深める ア 自己の体験と比べての価値の感得 イ 道徳的価値の自覚を確かにする板書の工夫 ウ 話し合いを深化を図るための意図的指名
	見つけ	○ねらいとする道徳的価値の主体的自覚 ・高められた価値観に照らして自己を見つめる。	○多様な体験を想起し、交流しながら自分を深く見つめる ア 直接体験（自分の体験を振り返る。） イ 間接体験（他者の体験を振り返る。） ウ 「わたしたちの道徳」の活用
	温める	○道徳的価値の整理と実践への意欲化 ・生き方へのあこがれを温める。	○余韻を残して終わる ア 教師の説話・体験談、親や友人からの手紙 イ 子どもの日記・作文・ノート ウ ことわざや格言、名言 エ 「わたしたちの道徳」の活用

第4章 参考資料集

- (1) 自尊感情を育む道德教育の関連表
- (2) 道德ユニットの組み方
- (3) 自尊感情を育むユニットの構成図
- (4) 道德ユニットの資料集
- (5) データ集(CD-ROM)

別冊

- (1) 道德学習指導案
- (2) 道德ユニットの略案
- (3) 道德ユニットのワークシート集



自尊感情を育む道徳教育 関連表

各教科等 道徳の内容	国 語	算 数	生 活	音 楽	図画工作	体 育	道徳の時間	特別活動	家庭・その他
1－(2) 勤勉努力 自分がやらなければならない仕事は、しっかりと行う。	○日づけとよう日をおぼえよう 日付や曜日の漢字について繰り返し練習する。 ○単元名 各教科等で行われる自尊感情を育む道徳教育の活動例	○たしざん・ひきざん 20以下の加法・減法について粘り強く習熟する。 ○なんじなんぶん 時計を用いて時刻を読んだり示された時刻に針を置いたりして時計の見方に習熟する。	○はなやさいをそだてよう 育ててみたい植物を選び植物の成長に合わせた世話を続ける。 ○いきものとなかよし 虫を捕まえ、すみかを作るなど環境を整えて飼う。 ○もうすぐ2年生 自分の1年間を振り返り、楽しかったことやできるようになったことを発表し合う。	○けんぱんハーモニカをふこう 基本的な演奏の仕方を身に付けることができるように進んで練習する。 ○はくのにってリズムをとろう 拍の流れにのってリズムを演奏できるように練習する。	○おしをつかまえたよ 大きな画用紙にのびのびと描いた人物と昆虫の絵を最後まで丁寧に仕上げる。	○鉄棒遊び ○なわとび運動 マット遊び 難しい技にもあきらめず目標を決めて繰り返し練習する。	○うかんだうかんだ ○こくまのらっぱ ○シロクマのクウ ○がんばれホイッ ○がんばれロボ ○バムのおかたづけ	○終業式・始業式・修了式・卒業式 学校生活の節目として自分自身を振り返り、新たな気持ちで生活や学習に取り組む。 ○交通安全教室 自分の命を大切にするために交通ルールを守る。 ○持久走大会、なわとび記録会 自分の目標を決めて、あきらめずに努力する。	家庭 アサガオの世話 夏休み中も責任を持って世話を続ける。 給食 好き嫌いをしないで食事しよう 給食はバランスのよい食事であることが分かる。 帰りの会 できるようになったことコーナー できるようになったことなどを発表し、やり遂げた喜びや充実感を味わう。
2－(3) 友情 友だちと仲よくし、助け合う。	○かいがら 登場人物の気持ちを想像し、友だちを思いやる心を育む。 ○あるけあるけ・木 グループで音読の工夫をし、協力して発表する。	○あわせていくつふえと いくつ ○のこりはいくつちがいは いくつ 式と絵を見て問題を作り友達解き合うことにより違いやよさが分かる。 ○いろいろなかたち ○かたちづくり いろいろな面の形(色板)を組み合わせて作った絵や模様を友達と見せ合いよさが分かる。	○ともだちたくさんつこう 友達や上級生とのかかわりを通して友達と遊ぶ楽しさが分かる。 ○あきまつりをひろこう 秋の自然物を使っているいろいろなものを工夫して作り、うまく作ることを友達と教え合う。	○うたでなかにいになろう 友達と一緒に歌ったり身体表現をしたりする楽しさが分かる。 ○たがいのおとをきこう 互いの歌声や楽器の音を聞き合いながら気持ちを合わせて演奏する楽しさを味わう。	○すきなもののいっばい 自分が好きな絵をたくさん描き、友達と見せ合ってお互いのよさが分かる。 ○どうぶつむらのピクニック ○ゆめのまちさんちゅうめ お互いの作品を見せ合い、一緒に遊ぶことを通して自他の活動のよさを感じ取る。	○水遊び 決まりを守り友達と協力して楽しく活動をする。 ○ボール遊び お互いのよさを生かし、協力してゲームを行う。	○二わのことり ○くまのたからもの ○こころはっぱ ○およげないりすさん	○遠足 友達と楽しく活動し体験を共有する。 ○牛蒡大運動会 みんなで力を合わせてやり遂げるよさが分かる。 ○お楽しみ会 みんなの意見を取り入れて仲よく楽しめる計画を立てる。	常時 こころの木コーナー 日常の生活の中で気付いた友達や自分のよさを認め合う。 常時 係活動 友達と仕事を分担しながら楽しく活動する。
4－(2) 勤労 働くことのよさを感じて、みんなのために働く。	○おおきなかぶ 一人一人の力は小さくても協力することの大切さを考える。 ○花いっばいになあれ 登場人物が世話をした植物の成長を通して働くことのよさを考える。		○つくろうあきのおくりもの 秋の自然物を使った作品作りの後片付けを進んで行う。 ○はなやさいをそだてよう 学級園の除草を最後まで行う。 ○じゃがいもほりをしよう 自分たちが育てた野菜の収穫を楽しんで行う。	○いろいろなおとしに たしも みんなが使ったいろいろな楽器の片付けを楽器ごとに扱いに気を付けて行う。	○うきうきボックス 自分の片付けが終わったらみんなが使える材料の片付けを行う。 ○はるはるおなほがみ え みんなが使ったお花紙の片付けを進んで行う。	○跳び箱遊び ○マット遊び 準備や片付けを協力して行うことの大切さが分かる。	○ほくのしごと ○もりのゆうびん屋さん ○みんなのニュースがかり ○ほくにまかせてね ○ゆかいなせんたくもの	○係活動 みんなが楽しく過ごせるように工夫して活動する。 ○当番活動 みんなのために働くことで役立ち喜びとやりがいを感じる。 ○1人1フランター 運動会会場を飾るプランター作りに進んで取り組む。	常時 当番活動 日々の活動を振り返り自他の仕事の大切さを考える。 常時 清掃活動 分担場所を隅々まできれいに掃除をし、自分の役割を果たす。 家庭 おてつだい帳 家族のためにする仕事にやりがいや自分の成長について考える。
4－(3) 家族愛 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。	○サラダでげんき 家族のために頑張る主人公と協力してくれる登場人物の行動を通して主人公の心情を考える。 ○おとうとねずみ千口 登場人物の行動や会話を通して家族に対する主人公の心情を考える。		○なつはたのしいことがいっばい 夏休みの楽しみ方や家族との過ごし方を考え、家族とのきずなを深める。 ○かぞくといっしょにおしやうがつ 家族の中での自分の立場や知り、積極的に家族と交わろうとする。		○なつやすみのおもいで 家族と楽しく過ごした思い出を絵に表す。 ○こころをこめてフレイゼント 身近な材料を使って飾りや季節のカードを作り、お世話になった人にプレゼントする。		○かやねずみのおかあさん ○おてつだい ○おかあさんのつくったぼうし	○牛小フェスティバル 地域の方々と一緒に活動し交流を深めると共にいつも温かく見守られていることが分かる。	家庭 おてつだい帳 家族の一員をとしての自覚を深め、自分の役割を果たす。

道徳ユニットの組み方

① 道徳ユニットで学習する道徳の内容項目を決めます。

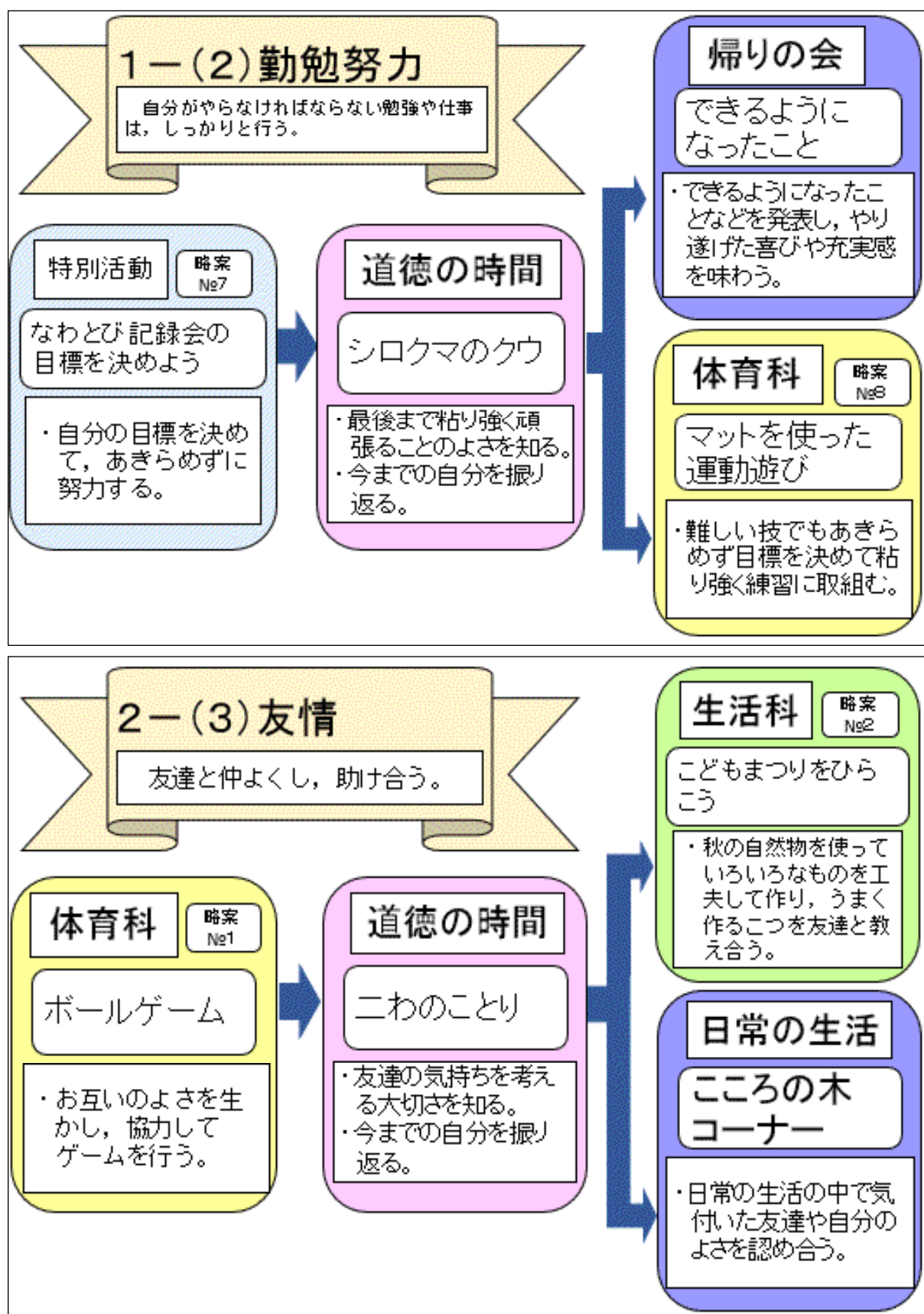
② 道徳の時間の資料等を決めます。

③ 道徳の時間の前後に組み合わせる各教科等の道徳教育の内容を決めます。

自尊感情を育む道徳教育 関連表

国語	算数	生活	音楽	図画工作	体育	道徳の時間	特別活動	家庭・その他
1-② 勤勉努力 自分がやらなければならない仕事は、しっかりと行う。 ○単元名 各教科等で行われる 自尊感情を育む道徳 教育の活動例	○目づけよう目をあてよう 目や口の位置について繰り返し練習する。 ○たんじさん・ひきさん 時計を用いて時刻を読み取り示された時刻に針を置いたりして時計の見方に習熟する。	○はなややさいをどどてよう 育ててみたい植物の成長に合わせて世話をする。 ○いばもとのなやよし 虫を捕まえ、すみかを作るなど環境を整えて飼育する。 ○もうすぐ2年生 自分の1年間を振り返り、楽しかったことやできなかったことを発表し合う。	○けんけんハートニカをめぐろう 基本的な音楽の仕方を身に付けることができるように進んで練習する。 ○はくにとってリズムをこころ 曲の流れに合わせてリズムを演奏できるように練習する。	○ゆしをつかまえて 大きな両手袋にのびのびと描いた人物の尾端の線を最後まで丁寧に描く。	○蹴球遊び ○サッカーボール ○フットボール 難しい技にもあきらめず目標を決めて繰り返し練習する。	○うかんどうかんどう ○こころのつらさ ○シロクマのクウ ○がんばれホィ ○がんばれホィ ○バムのおかたづけ	○終業式・始業式・修了式・卒業式 学校生活の節目として自分自身を振り返り、新たな気持ちで生活や学習に取り組む。 ○交通安全教室 歩道の歩行を大切にするための練習をする。 ○持久走大会、びわとび記録会 自分の目標を決めて、あきらめずに努力する。	○アサガオの世話 夏休み中も責任を持って世話をする。 ○好きな食べ物を食べよう 給食はバランスのよい食事を摂ろう。 ○ひまわりをよびよる できるようなったことなどを発表し、やり遂げた喜びや充実感を味わう。 ○こころのつらさ 1年生の生活の中で学んだ友達や自分のよさを思い合う。 ○あそびあそび・ホ ガムテープや糸でつなぐ。協力して発表する。
2-③ 友情 友だちと仲よくし、助けあおう。	○かいつ 植物の成長の様子を観察し、友だちを思いやる心を育む。 ○あそびあそび・ホ ガムテープや糸でつなぐ。協力して発表する。 ○うしろななかな いろいろな面の形を組み合わせて作る模様を友達と見比べる。	○あわせていくつあ いくつ ○のりくわいくつあ いくつ 式と結果を見て問題を友達と共有し、正解と間違いを分かち合う。 ○うしろななかな いろいろな面の形を組み合わせて作る模様を友達と見比べる。				帰りの会 できるようになったこと ・できるようになったことなどを発表し、やり遂げた喜びや充実感を味わう。	○こころのつらさ 1年生の生活の中で学んだ友達や自分のよさを思い合う。 ○あそびあそび・ホ ガムテープや糸でつなぐ。協力して発表する。	
4-② 労働 働くことのよさを感じて、みんなのために働く。	○あそびあそび 一人一人の力は小さくても協力することの大切さを考える。 ○花いっぱい 登場人物が世話をした植物の成長を通して働くことのよさを考える。					道徳の時間 シロクマのクウ ・最後まで粘り強く頑張ることのよさを知る。 ・今までの自分を振り返る。	○あそびあそび 一人一人の力は小さくても協力することの大切さを考える。 ○花いっぱい 登場人物が世話をした植物の成長を通して働くことのよさを考える。	
4-③ 家族愛 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。	○サラダでけん 家族のために頑張る主人や主婦の行動を通して主人公の心情を考える。 ○あそびあそび 登場人物の行動や会話を通して家族に対する主人公の心情を考える。					体育科 マットを使った運動遊び ・難しい技でもあきらめず目標を決めて粘り強く練習に取り組む。	○あそびあそび 一人一人の力は小さくても協力することの大切さを考える。 ○花いっぱい 登場人物が世話をした植物の成長を通して働くことのよさを考える。	

自尊感情を育む道徳ユニットの構成図（例）



4-(2) 勤労

働くことのよさを感じて、みんなのために働く。

特別活動

略案
№3

どうばんかつどうを
レベルアップしよう

- ・みんなのために働くこ
とで役立つ喜びやや
りがいを感じる。

道徳の時間

もりの
ゆうびんやさん

- ・みんなのために働く
よさについて考える。
- ・今までの自分を振り
返る。

帰りの会

できるよう
になったこと

- ・できるようになったこ
となどを発表し、やり
遂げた喜びや充実感
を味わう。

家庭への 働きかけ

おてつだい帳

- ・家族のためにする
仕事にやりがいや
自分の成長を感じ
る。

4-(3) 家族愛

父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。

生活科

略案
№4

かぞくといっしょに
おしょうがつ

- ・家族の中での自分の
立場や役割を知り、
積極的に家族と交わ
ろうとする。

道徳の時間

かやねずみの
おかあさん

- ・家族の願いを知る。
- ・家族のために自分が
できることを考える。

国語科

略案
№5

おとうとねずみ
ち口

- ・登場人物の心情をと
おして、自分を大切に
思ってくれる家族に感
謝の気持ちを持つ。

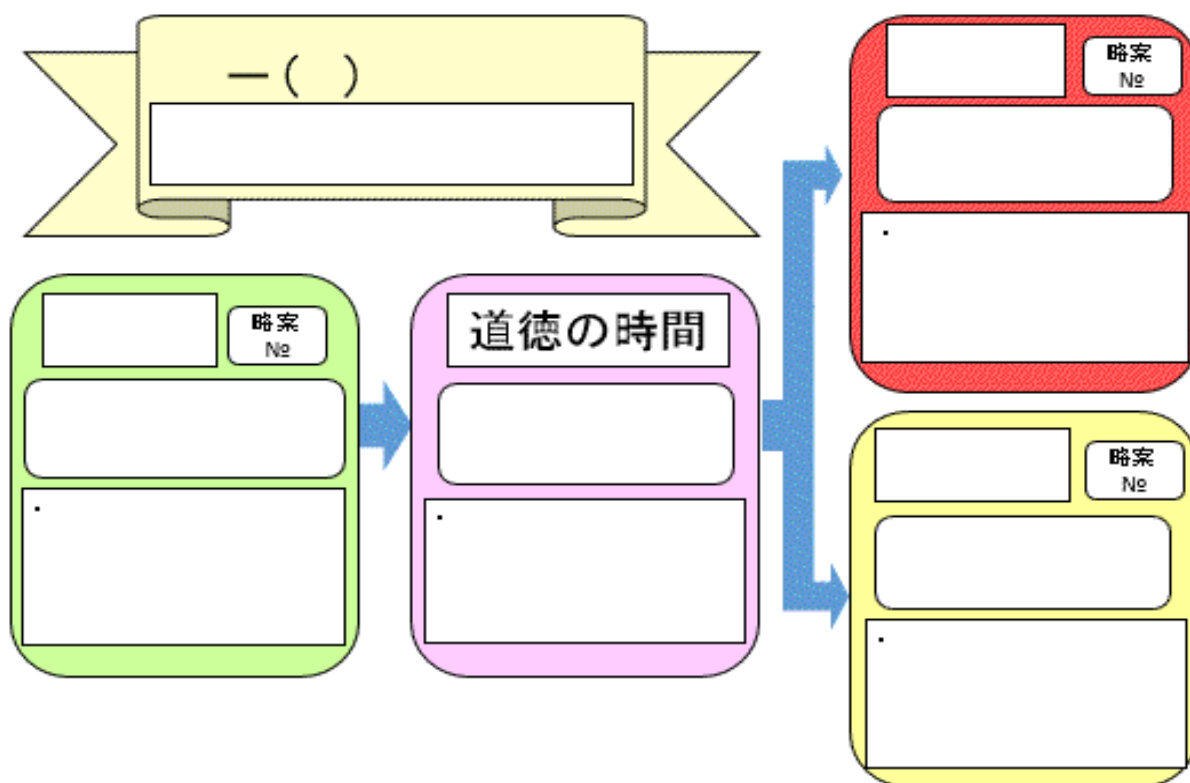
図画工作科

略案
№6

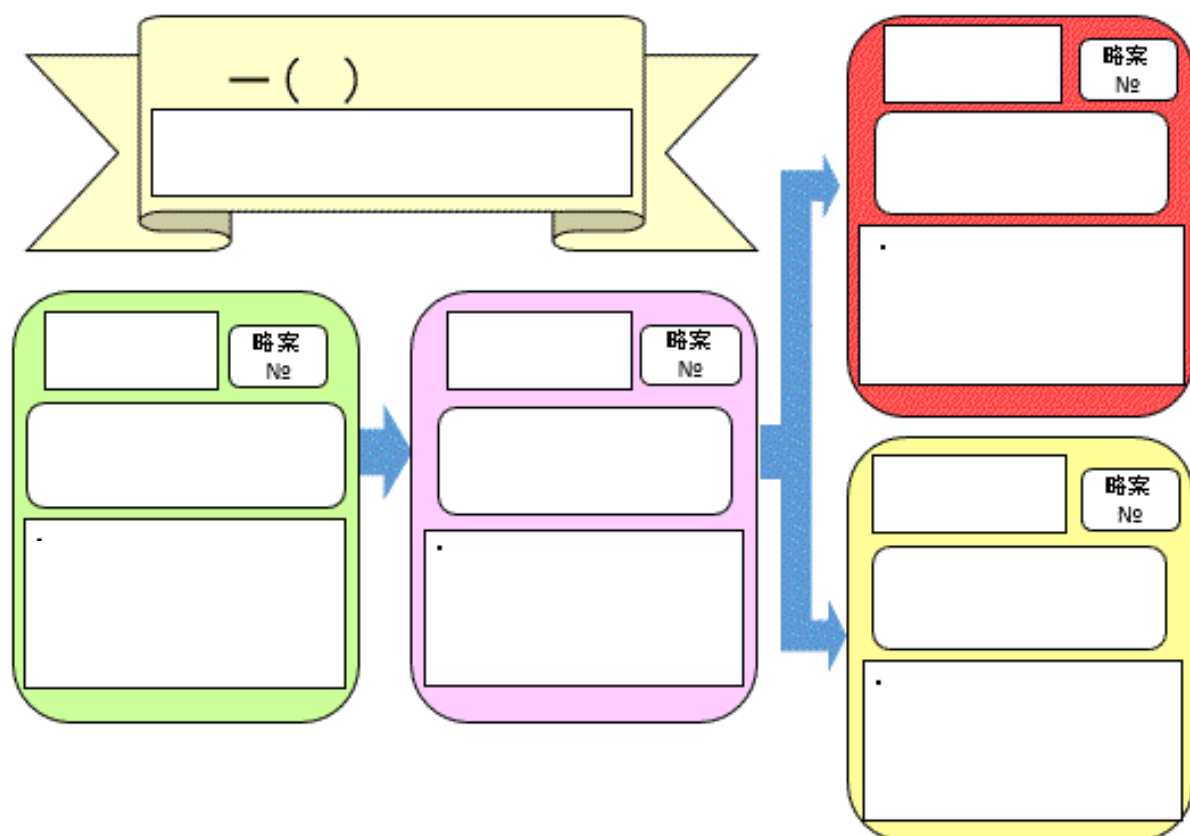
こころをこめて
プレゼント

- ・身近な材料を使って
飾りや季節のカード
を作り、家族に感謝
の気持ちを表す。

道徳の時間を中心としたユニット構造図 枠



道徳の時間を中心としないユニット構造図 枠



自尊感情 育成シート

児童氏名				記入者名			
作成日	年	月	日	記入日	年	月	日

短期計画

(育てたい自尊感情)

気になるところ
伸ばしたいところ

- ☐ 自信を持たせたい
- ☐ 積極的になってほしい
- ☐ 友達と仲よくしてほしい
- ☐ その他

長期計画

(育てたい児童像)

こんな子に
なってほしい

☐ 学習意欲が高い	☐ 課外活動に積極的
☐ 友達関係が良好	☐ 進路の目標が明確
☐ 教師など大人との関係が良好	☐ 遅刻や欠席が少ない

手立て

☐ にチェックを入れてください。

☐ いろいろなことを体験させる



☐ ほめる・認める



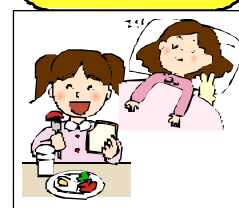
☐ 関わる



☐ はげます



☐ 規則正しい生活習慣を心掛ける



その他

反省

チェックをした手立てを行うことができたか。
◎よくできた ○できた △あまりできなかった

月	1 週 目	2 週 目	3 週 目	4 週 目
反 省	◎ ○ △	◎ ○ △	◎ ○ △	◎ ○ △
月	1 週 目	2 週 目	3 週 目	4 週 目
反 省	◎ ○ △	◎ ○ △	◎ ○ △	◎ ○ △

自尊感情を育むための観点一覧表

自尊感情の領域 道徳的価値		自己受容【基本的自尊感情】 B (BASE)		自己有用感【社会的自尊感情】 S (SOSE)	
1-(2) 勤勉 努力	1 粘り強く 取り組む 態度	B1	・ 苦手や不得意なことにも最後まで取り組むことができるようにする。 ・ 自分で決めたことは、最後まで取り組むことができるようにする。	S1	・ 自分たちで決まりを決めて活動し、それを守って行動しようとする態度を認めるようにする。
	2 成果の 発揮 自己理解	B2	・ 自分の得意なことや頑張ったことの成果を発揮できる場を設定する。 ・ 自分のよいところだけでなく苦手や不得意なところも受け止め、自分らしさとして認められるようにする。 ・ 自分が得意なことを生かしたり、興味を持っていることについて友達に話したりすることができるようにする。	S2	・ 新しくできるようになったり、繰り返し努力して取り組んだりしたことを認めるようにする。
2-(3) 友情	3 所属感 自己の理解者 の存在の認識	B3	・ 自分が友達に認められ、学級での居場所を感じることができるようにする。 ・ 自分が頑張って取り組んできたことを認めてくれる人がいることに気付くことができるようにする。	S3	・ 友達のためにできることや頑張れることを考え、実行できたことを認めるようにする。 ・ 自分が頑張って取り組んできたことを認めてくれる人がいることに気付くことができるようにする。
	4 友達との 学び合い 他者理解	B4	・ 互いの得意なことや好きなことを認め合えるようにする。 ・ 同じ事柄でも様々な考え方があったり、友達が努力して取り組んでいることに気付くことができるようにする。	S4	・ 友達と協力し合うことで、楽しくよりよい生活が送れること、様々な人と関わり合いながら生活していること気付くことができるようにする。 ・ 友達と協力し合うことで、楽しくよりよい生活が送れること、様々な人と関わり合いながら生活していること気付くことができるようにする。
4-(2) 勤労	5 友達や教師 からの称賛 所属感	B5	・ 教師や友達からの称賛を受け、児童の得意なことや頑張ったことについて自分の長所として認識できるようにする。 ・ 自分の仕事が友達や教師に認められ、学級での居場所を感じることができるようにする。	S5	・ 教師や友達からの称賛してもらうことで自分が周りの人の役に立っていることを認識できるようにする。 ・ 自分たちで決まりを決めて活動し、それを守って行動できるようにする。
	6 他者への 貢献	B6	・ 自分のした仕事が周りの人の役に立っていることをに気付くことができるようにする。	S6	・ 進んで片付けをし、みんなのために行動できたことを認めるようにする。
4-(3) 家族愛	7 家族への 感謝	B7	・ 家族の支えによって、楽しくよりよい生活が送れること、家族と助け合いながら生活していること気付くことができるようにする。 ・ 自分は家族に温かく見守られているということに気付くことができるようにする。	S7	・ 自分は家族の一員として頼りにされ、役に立つことができるということを感じるようになる。
	8 所属感 自己の理解者 の存在の認識	B8	・ 自分が家族に認められ、家庭での居場所を感じることができるようにする。 ・ 自分が頑張って取り組んできたことを認めてくれる人がいることに気付くことができるようにする。	S8	・ 家庭での手伝いの実施状況を振り返ることで、自分は家族の役に立っていることを認識することができるようにする。

略案の作り方

自尊感情を育むための観点一覧表

道徳的価値	自己受容【基本的自尊感情】 B (BASE)		自己有用感【社会的自尊感情】 S (SOSE)	
	1 粘り強く取り組む態度	2 成果の発揮 自己理解	3 所屬感 自己の理解者の存在の認識	4 友達との学び合い 他者理解
1-(2) 勤勉 努力	B1 粘り強く取り組む態度 ・ 苦手や不得意なことにも最後まで取り組むことができるようになる。 ・ 自分と決めたことは、最後まで取り組むことができるようになる。	B2 成果の発揮 自己理解 ・ 自分の得意なことや頑張ったことの成果を発揮できる場を設定する。 ・ 自分のよいところだけでなく苦手や不得意なところも受け止め自分らしさとして認められるようにする。 ・ 自分が得意なことを生かしたり、興味を持っていることについて友達に話したりすることができるようにする。	S1 自分たちで決まりを決めて活動し、それを守って行動しようとする態度を認めるようにする。	S2 新しくできるようになったり、繰り返し努力して取り組んだりしたことを認めるようにする。
2-(3) 友情	B3 所屬感を味わう経験 ・ 自分が友達に認められ、学級での居場所を感じることができるようにする。 ・ 自分が頑張って取り組んできたことを認めてくれる人がいることに気付くことができるようにする。	B4 友達との学び合い 他者理解 ・ 互いの得意なことや好きなことを認め合えるようにする。 ・ 同じ事柄でも様々な考え方があって、友達が努力して取り組んでいることに気付くことができるようにする。	S3 友達のためにできることや頑張れることを考え、実行できたことを認めるようにする。 ・ 自分が頑張って取り組んできたことを認めてくれる人がいることに気付くことができるようにする。	S4 友達と協力し合うことで、楽しくよりよい生活が送れること、様々な人と関わり合いながら生活していること気付くことができるようにする。 ・ 友達と協力し合うことで、楽しくよりよい生活が送れること、様々な人と関わり合いながら生活していること気付くことができるようにする。
4-(2) 勤労	B5 友達や教師からの称賛を受け、児童の得意なことや頑張ったことについて自分の長所として認識できるようにする。 ・ 自分が友達や教師に認められ、学級での居場所を感じることができるようにする。	B6 他者への貢献 ・ 自分がした仕事や周りの人の役に立っていることに気付くことができるようにする。	S5 教師や友達からの称賛をもらって自分と周りの人の役に立っていることを認識できるようにする。 ・ 自分たちで決まりを決めて活動し、それを守って行動できるようにする。	S6 進んで片付けをし、みんなのために行動できたことを認めるようにする。
4-(3) 家族愛	B7 家族への感謝 ・ 家族の支えによって、楽しくよりよい生活が送れること、家族と関わり合いながら生活していることに気付くことができるようにする。 ・ 自分は家族に温かく見守られていることに気付くことができるようにする。		S7 自分は家族の一員として頼りにされ、役に立つことができるということを感じることができるようになる。	

No.	1	教科・領域	体育	単元	ボールゲーム	指導時期
本時の目標	みんながボールを取ったり投げたりできる規則を工夫し、きまりを守って楽しく運動することができる。					11月
本時の道徳教育	自己受容を育む 共有体験活動					
2-(3) 友情	共感	共感	B1 粘り強く取り組む経験 B5 友達や教師からの称賛 B3 所屬感を味わう経験	S1 粘り強く取り組む態度 S6 他者へ貢献する意欲喚起の場 S3 自己の理解者の存在の認識 S5 友達や教師からの称賛	自尊感情を育む観点	
1	集合・整列し、あいさつをする。					B1 粘り強く取り組む経験 ・ 苦手や不得意なことにも最後まで取り組むことができるようになる。
2	準備運動をする。 ○ 体育当番が号令をかけ、準備運動をする。 ○ 持久走の練習のためグラウンドを走る。(5分間)					S3 自己の理解者の存在の認識 ・ 友達のためにできることや頑張れることを考え、実行できたことを認めるようにする。
3	通常のルールでドッジボールをする。(10分間)					S1 粘り強く取り組む態度 ・ 自分たちで決まりを決めて活動し、それを守って行動できるようにする。
4	みんながボールを取ったり投げたりできる牛渡ルールを決めてボール遊びをする。 ○ 牛渡ルールを決める。 牛渡ルール ・ 同じ人ばかりボールを取ったり投げたりしていないか考える。 ・ 友達にボールをパスした次にボールが取れたら自分で投げていい。 ・ ボールを1度もさわらない友達がいないようにする。 ○ 牛渡ルールを守ってドッジボールをする。					S3 自己の理解者の存在の認識 ・ 自分が頑張って取り組んできたことを認めてくれる人がいることに気付くことができるようにする。
5	学習のまとめをする。 ○ よかったところ、もっとこうするといいところなどを発表し合う。					B3 所屬感を味わう経験 B5 友達や教師からの称賛 ・ 児童の得意なことや頑張ったことの成果を発揮できる場を設定する。
6	整理運動をする。					
7	集合、あいさつをする。					

① 道徳ユニットの教科、単元、単元の目標、本時の道徳教育の内容項目、指導時期を記入する。

② 本時の自己受容を育む共有体験活動に○を付ける。

③ 本時の主な学習活動の流れを書く。

④ 自尊感情を育むための観点一覧表から本時に関連のある観点を取り出し、貼り付ける。

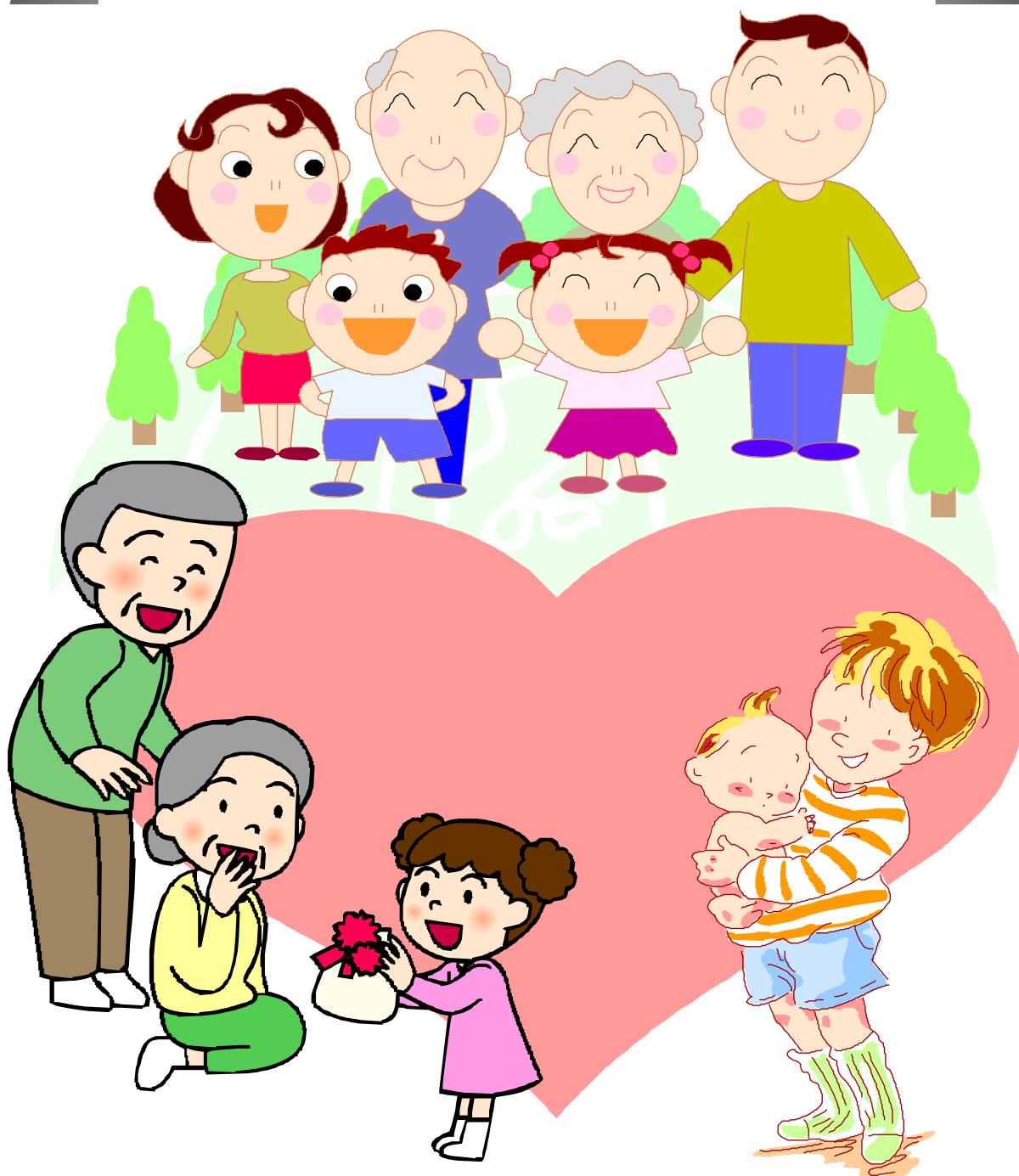
No.	8	共有体験活動の形態		運動遊び	指導時期
本時の目標	運動遊びを通して、自分や友達と協力していろいろな技に進んで取り組むことができる。			1月	
本時の道徳教育	自己受容を育む 共有体験活動	自尊心を育む場・手立て			
		B 自己受容	S 自己有用感		
1－(2) 勤勉努力	共視 共感	B1 粘り強く取組む態度 B3 自己の理解者の存在の認識 B5 友達や教師からの称賛	S4 友達との学び合い S6 他者への貢献		
主な学習活動		自尊心を育む観点			
1 集合・整列し、あいさつをする。	※ ワークシートあり				
学習活動の中での具体的な自尊心を育む場や手立てを知らせる。		S4 友達との学び合い ・友達と協力し合うことで、楽しくよりよい生活が送れること、様々な人と関わり合いながら生活していること気付くことができるようにする。 (S)			
4 各マット運動の演技を見せ合い、運動のやり方を教え合う。	B3 所属感を味わう経験 B5 友達や教師からの称賛 ・児童の得意なことや頑張ったことの成果を発揮できる場を設定する。(B)				
5 後片付け	自尊心育成の二つの観点（B，S）を、学習活動の流れに沿って知らせる。		B1 粘り強く取組む態度 ・苦手や不得意なことにも最後まで取り組むことができるようにする。(B) S6 他者への貢献 ・進んで片付けをし、みんなのために行動できたことを認めるようにする。(S) B3 自己の理解者の存在の認識 ・新しくできるようになったり、繰り返し努力して取り組んだりしたことを認めるようにする。(B)		
6 整理運動をする。					
7 集合、あいさつをする。	板書計画				

板書計画

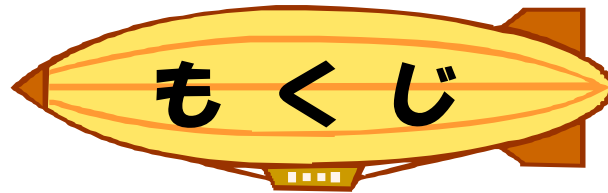
ともだちと おしえあいながら できるわざを ふやして ころがり名人になろう！		きまり ・ともだちがマットの上にいるときはまつ。 ・終わったらずぎの人にあいずをする。	月
ステージ	ブリッジ	ろくぼくさかだち	日（ ）
足うち	かえるの	おもったこと	
そくてん	うさぎとび		
よこ	ころがり		
まへ・うしろ			

No.	1	教科・領域	体 育	単 元	ボールゲーム	指導時期
本時の目標	みんながボールを取ったり投げたりできる規則を工夫し、きまりを守って楽しく運動することができる。					11月
本時の道徳教育	自己受容を育む 共有体験活動	自 尊 感 情 を 育 む 場 ・ 手 立 て				
		B 自己受容		S 自己有用感		
2－（3） 友 情	共視・共感	B1 粘り強く取り組む経験 B5 友達や教師からの称賛 B3 所属感を味わう経験		S1 粘り強く取組む態度 S6 他者へ貢献する意欲喚起の場 S3 自己の理解者の存在の認識 S5 友達や教師からの称賛		
主 な 学 習 活 動					自尊感情を育む観点	
1 集合・整列し、あいさつをする。					B1 粘り強く取り組む経験 ・ 苦手や不得意なことにも最後まで取り組むことができるようにする。	
2 準備運動をする。 ○ 体育当番が号令をかけ、準備運動をする。 ○ 持久走の練習のためグラウンドを走る。（5分間）					S3 自己の理解者の存在の認識 ・ 友達のためにできることや頑張れることを考え、実行できたことを認めるようにする。	
3 通常のルールでドッジボールをする。（10分間）					S1 粘り強く取組む態度 ・ 自分たちで決まりを決めて活動し、それを守って行動できるようにする。	
4 みんながボールを取ったり投げたりできる牛渡ルールを決めてボール遊びをする。 ○ 牛渡ルールを決める。 牛渡ルール ・ 同じ人ばかりボールを取ったり投げたりしていないか考える。 ・ 友達にボールをパスした次にボールが取れたら自分で投げていい。 ・ ボールを1度もさわらない友達がいないようにする。					S3 自己の理解者の存在の認識 ・ 自分が頑張って取り組んできたことを認めてくれる人がいることに気付くことができるようにする。	
○ 牛渡ルールを守ってドッジボールをする。					B3 所属感を味わう経験 B5 友達や教師からの称賛 ・ 児童の得意なことや頑張ったことの成果を発揮できる場を設定する。	
5 学習のまとめをする。 ○ よかったところ、もっとこうするといいいところなどを発表し合う。						
6 整理運動をする。						
7 集合、あいさつをする。						

自尊感情を育むために



家庭編



Q1	自尊感情とは何でしょうか	 1
Q2	自尊感情が育まれている傾向にある子どもたちには、どのような様子が見られるのでしょうか	 2
Q3	自尊感情を育むためには、どうしたらよいのでしょうか	 3
Q4	子どもの可能性を広げるためには、どうしたらよいのでしょうか	 4
Q5	自尊感情を育むためには、子どもにどう関わったらよいのでしょうか	 5
Q6	子どものよさをどのように認めたらよいのでしょうか	 6
Q7	子どもをはげますには、どのような声掛けをすればよいのでしょうか	 7
Q8	その他に、子どもの自尊感情を育む手立てはありますか	 8
◇	自尊感情を育む手立て（一覧表）	 9

Q1

自尊感情とは何でしょうか

A

自尊感情

自分の長所も短所もあるがまま受け入れ、自分は価値のある、自分はかけがえのない存在だと思う気持ち

自尊感情とは、自分なりの満足を感じる感覚で、他の人と自分とを比べて「優れている」や「劣っている」という意識は含まれていません。

「自分はまだできないこともあるけど、今はこれでいいんだな。」

「短所はあるけど、それも自分。いいところもあるよ！」

「全部はうまくできない自分だけど、けっこういいんじゃないかな。」

このように、育みたい自尊感情は、他の人との比較ではありません。自分のよい面も悪い面も含めて受け入れ、かけがえのない存在である自分や友達を大切にしようとする気持ちです。



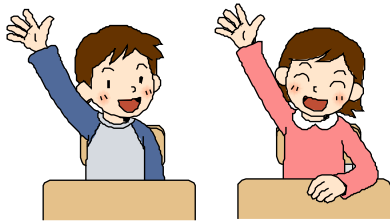
Q2

自尊感情が育まれている傾向にある子どもたちには、どのような様子が見られるでしょうか

A

自尊感情が育まれている傾向にあると、下記のような様子が行動面として表れます。

学習意欲が高い



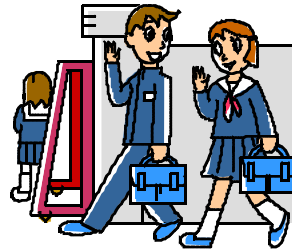
課外活動に積極的



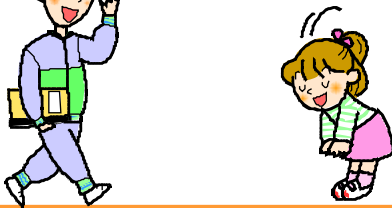
友達関係が良好



進路の目標が明確



教師など大人との
関係が良好



遅刻や欠席が
少ない



自分の気持ちを素直に話せる子どもほど、他の人に受け入れてもらったという実感が持てることから、自尊感情が育まれていきます。また、他の人を助け、人の力になるような関係を持てる子どもほど、人との関係の中で自分が認められ、役に立つ存在であることを実感することができるため、自尊感情が育まれていきます。自尊感情が育まれている子どもは、周囲との関係が良好で、自分に自信を持って意欲的に活動ができるようになります。

Q3

自尊感情を育むためには、どうしたらよいのでしょうか

A

一人一人のよさを生かし、自分を価値ある存在として認められるよう、次のような視点を持って接することが大切です。気になる視点があったらQ & Aをご覧ください。

決めつける

「この子は消極的だから、おつかいは無理だな…。」

可能性を広げる

「この子におつかいを任せたら自信がつくのでは…。」

Q4
へ

一方的な叱責

「Bはだらだらしてばかり。やる気はあるのか！」

関わる

「大丈夫？ずいぶん疲れてるみたいだけど、何かあった？」

Q5
へ

批判的

「できないだろうな。」

よさを見付ける

「音読が上手になってきたね。練習を頑張っているからだね。」

Q6
へ

ほめない

「手伝いするのが当たり前。」

ほめる・認める

「手伝ってくれてありがとう。おかげで早く片付いたよ。」

Q6
へ

あきらめ

「また、散らかしてる。なんでできないんだ。」

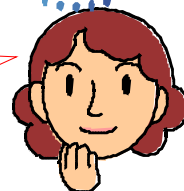
はげます

「楽しく遊んだね。今日は一緒に片付けてみよう。」

Q7
へ

野菜を残さない！

野菜も食べましょうね。



その他
Q8へ

プラスの行動をイメージできる言葉かけ

Q4

子どもの可能性を広げるためには、どうしたらよいのでしょうか

決めつける

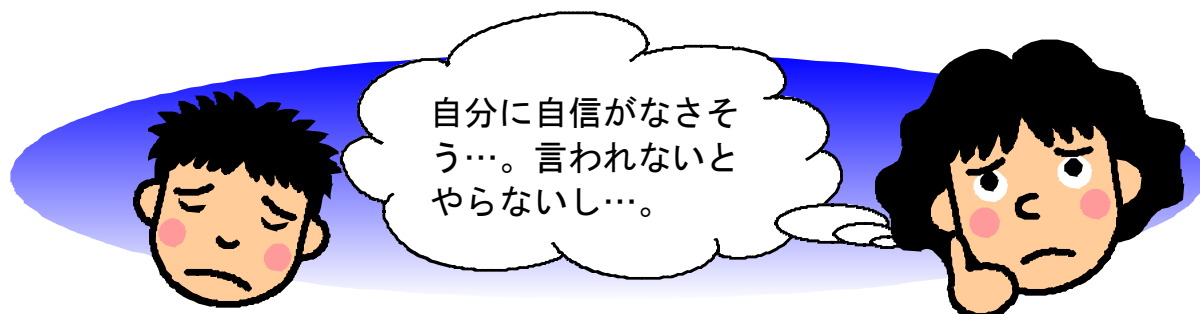
「この子は消極的だから、おつかいは無理だな…。」

可能性を広げる

「この子におつかいを任せたら自信がつくのでは…。」

A

子どもが目標や希望が持てるように、いろいろな体験をさせてみてください。

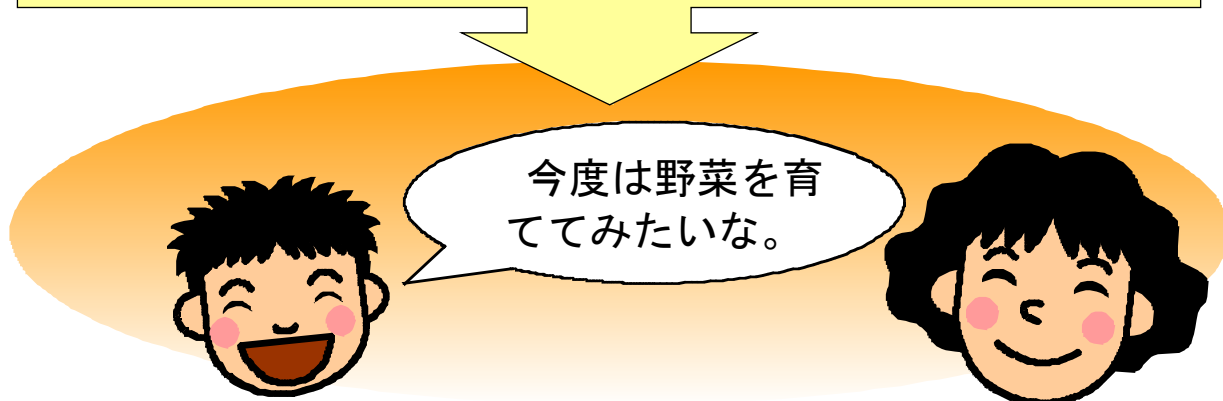


手伝いなど家庭での役割を与える

いろいろな経験をさせる

できることが増えて
自信がついたぞ。

やってみると
楽しいんだな。



Q5

自尊感情を育むためには、子どもにどう関わったらよいのでしょうか

一方的な叱責

「Bはだらだらしてばかり。やる気はあるのか！」

関わる

「大丈夫？ずいぶん疲れてるみたいだけど、何かあった？」

A

まずは、子どもの話に耳を傾けてみてください。



つい意見を言いたくなりますが、子どもの話をじっくりと聴いてみてください。お家の人に受け入れられているという安心感が、自尊感情を育むことにつながります。

Q6

子どものよさをどのように認めたらよいのでしょうか

批判的

「できないだろうな。」

よさを見付ける

「音読が上手になってきたね。練習を頑張っているからだね。」

ほめない

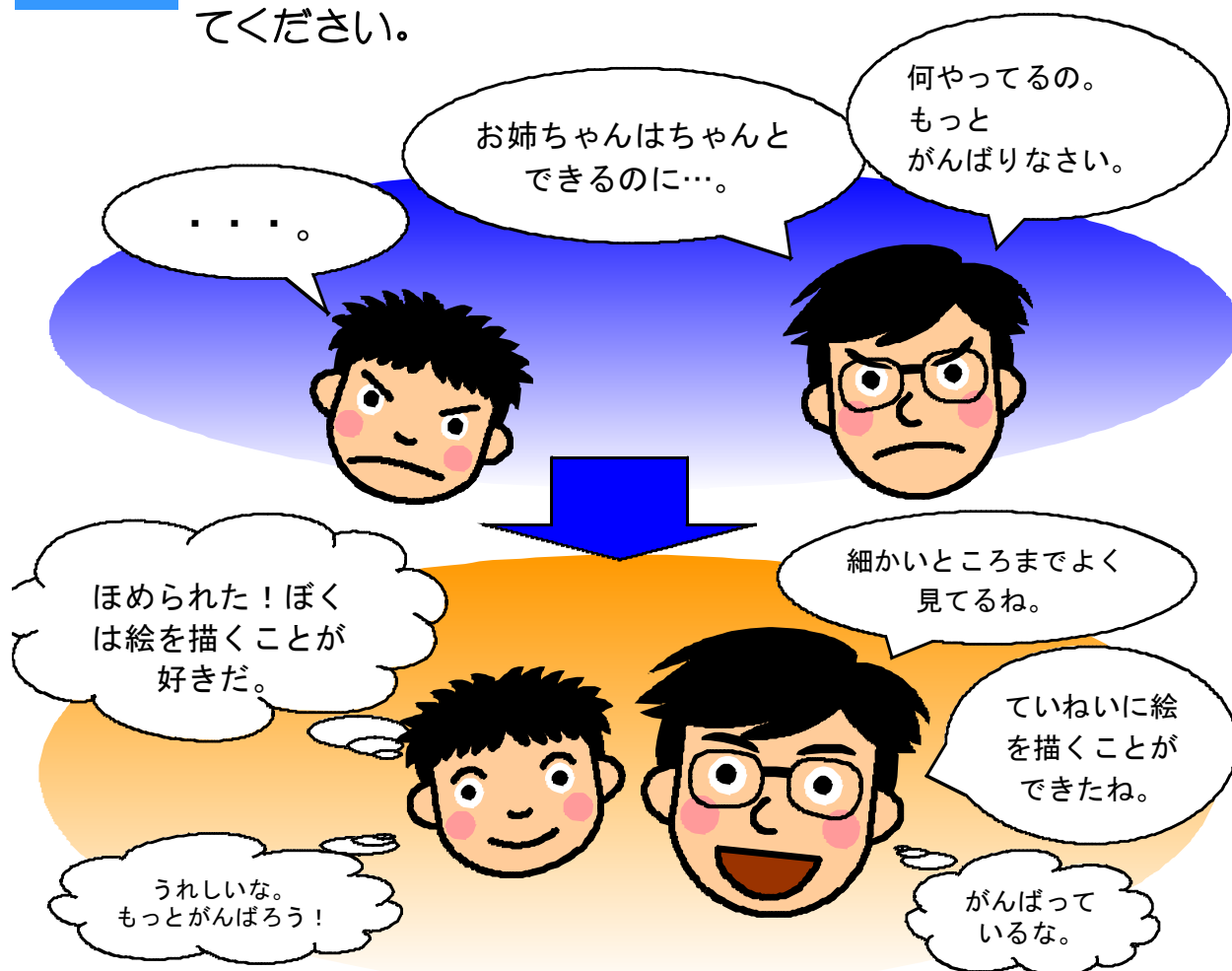
「手伝いするのが当たり前。」

ほめる・認める

「手伝ってくれてありがとう。おかげで早く片付いたよ。」

A

他の子と比較しないで、その子のよいところをほめてみてください。



できてないところや足りないところばかり見るのではなく、努力を評価してみてください。ほめられることによって自分に自信が持てるようになります。

Q7

子どもをはげますには、どのような声掛けをすればよいのでしょうか

あきらめ

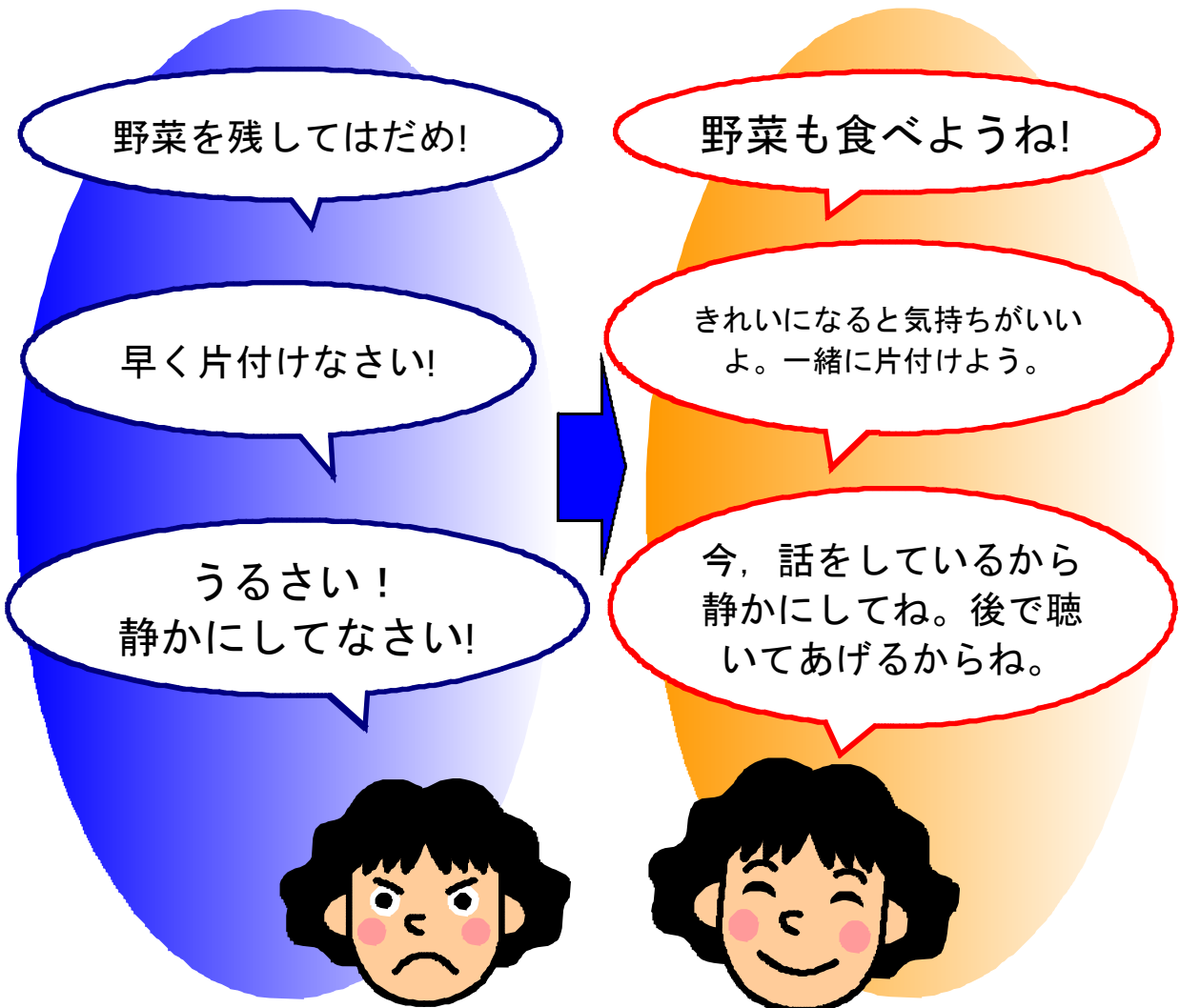
「また、散らかしてる。なんでできないんだ。」

はげます

「楽しく遊んだね。今日は一緒に片付けてみよう。」

A

ただ「がんばれ」ではなく、子どもががんばりたくなるように、プラスの行動をイメージできる表現で声掛けをしてみてください。



「〇〇してはいけません」と否定的な表現ではなく、「〇〇しましょう」という肯定的な表現を用いると、言われた子どもも前向きな気持ちになります。

Q8

その他に、子どもの自尊感情を育む手立てはありますか

A

規則正しい生活習慣が自尊感情を育てる?!

一見、生活習慣が自尊感情と関係があるとは思わいかもしれませんが。実は、朝食摂取率や睡眠時間が足りている子どもの自尊感情は高い傾向にあり、生活習慣は学力とも密接な関係があることが分かっています。

お家の人が子どものために環境を整えるとともに、できるようになるまで同じことをくり返すことが大切です。



お家の人々の自尊感情も高める?!

子どもの自尊感情を育むには、お家の人々の自尊感情を育てることも大切です。自分をありのままに受け入れられる人は、他の人も受け入れることができます。お家の人々も、かけがえのない存在なのです。



自尊心を育む手立て

子どもは、多くの時間を家庭で過ごしています。そのため、子どもの自尊心を育むためには、お家の方の関わり方や姿勢が重要になってきます。

○ 規則正しい生活習慣が自尊心を育てる?!

一見、生活習慣が自尊心と関係があるとは思わないかもしれませんが。実は、朝食摂取率や睡眠時間が足りている子どもの自尊心は高い傾向にあり、生活習慣は学力とも密接な関係があることが分かっています。親が子どものために環境を整えるとともに、できるようになるまで同じことをくり返すことが大切です。

○ 子どもの話に耳を傾ける

意見を押しつけるのではなく、子どもの話をじっくりと聴いてみてください。子どもは、話を聴いてもらうことで、お家の人に受け入れられているという安心感を得ることができます。その安心感が「自分は大切なんだ」という自尊心につながります。

○ よいところをほめる

大人の尺度で批判したり、他の子どもと比較したりすると、自信をなくしてしまいます。足りないところばかり見ず、努力を評価し、よいところを認めてください。ほめられることによって、自分に自信が持てるようになります。

○ 子どもに目標や希望を持たせる

家庭で手伝いなどの役割を与えて自分のやれることを増やしたり、いろいろな経験をさせたりすることで自信につながります。

○ 否定的な表現ではなく、肯定的な表現で話す

「〇〇してはいけません」と否定的な表現ではなく、「〇〇しましょう」という肯定的な表現を用いると、言われた子どもも前向きな気持ちになります。

○ 家の人々の自尊心も高める

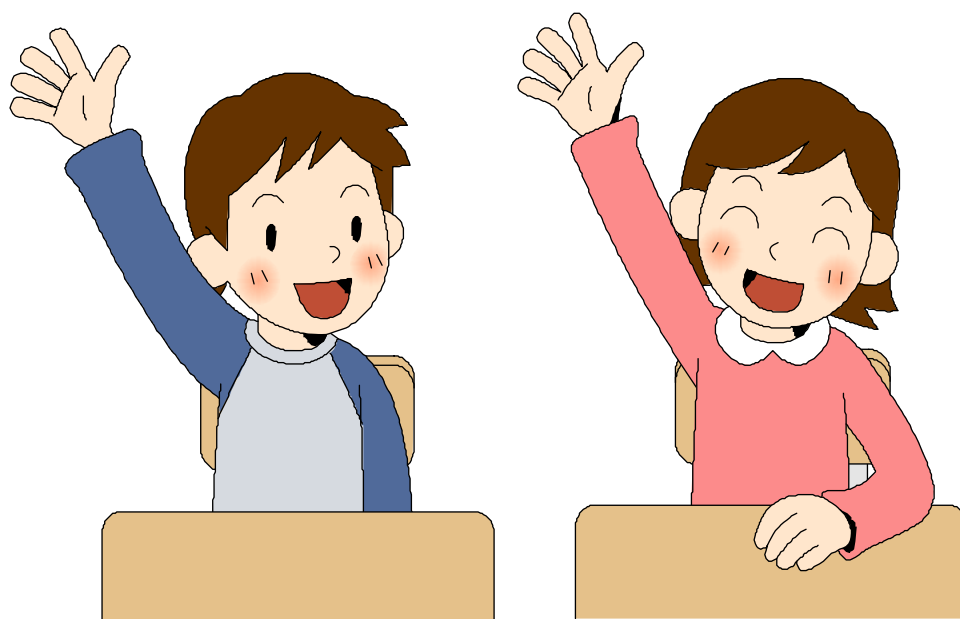
子どもの自尊心を育むには、養育者自身の自尊心を育てることも大切です。自分をありのままに受け入れられる人は、他の人も受け入れることができます。お家の人も、かけがえのない存在なのです。

自尊感情を育むために 別冊

(1) 道徳学習指導案

(2) 道徳ユニットの略案

(3) 道徳ユニットのワークシート集



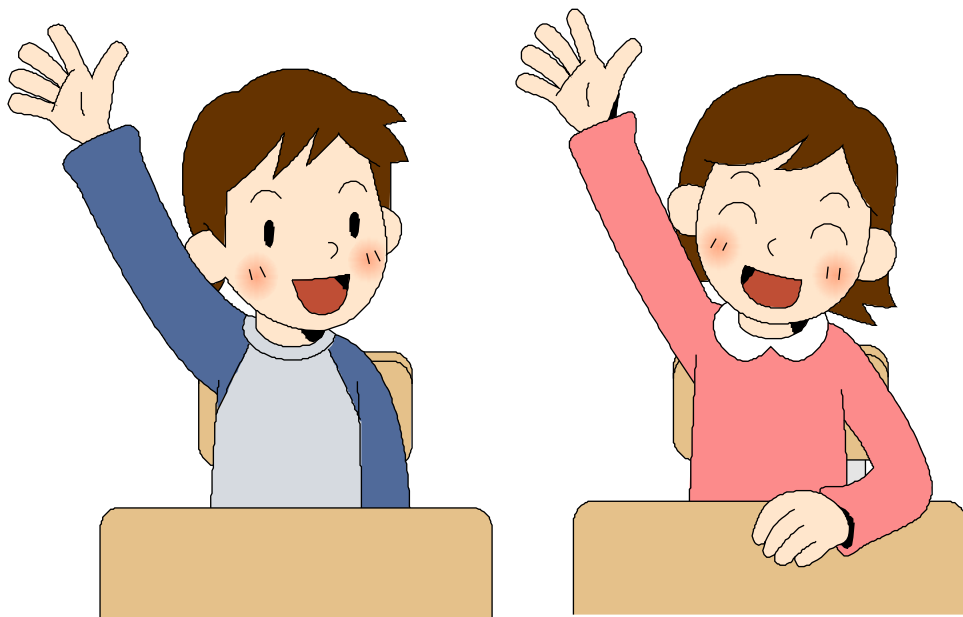
道徳学習指導案

1－（2）勤勉努力
「シロクマの クウ」

2－（3）友情
「二わのことり」

4－（2）勤勉
「もりの ゆうびん屋さん」

4－（3）家族愛
「かやねずみの おかあさん」



1 主 題 何度も粘り強く〔1－（2）勤勉努力〕

2 資料名 「シロクマの クウ」

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目1－（2）は「自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う」ことをねらいとしている。自分がやらなければならないことをしっかりとやり抜くことは、児童が自立し、よりよく生きていくために大切なことである。この時期の児童は、自分で自分をコントロールすることが難しく、言動も一貫性がないことがある。学校生活の中で、勉強や係の仕事を通して、自分でやらなければならないことにしっかりと取り組み、やり通すことの大切さを感じさせ、しっかりと行おうとする心情を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態

(平成25年11月7日調査 第1学年*人)

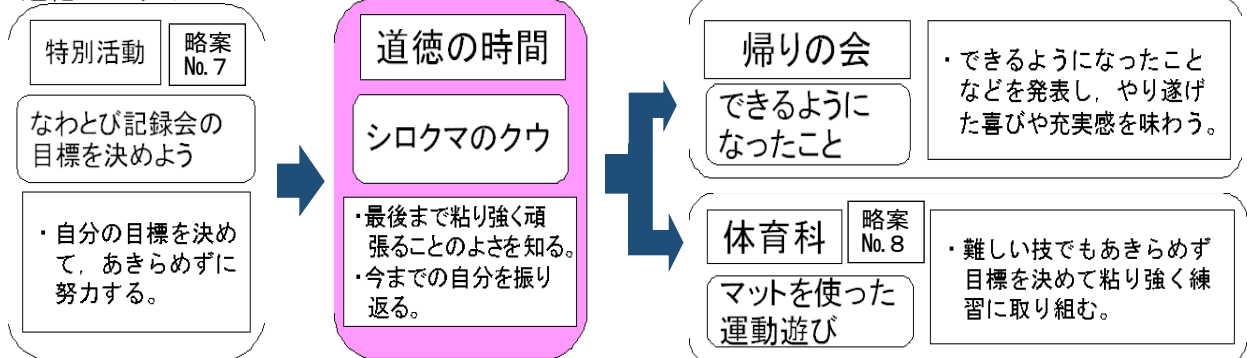
・あなたはあきらめないでがんばったことがありますか。	・ある *人 ・ない *人	・うんどう *人 ・そうじ *人	・べんきょう *人 ・無答 *人
・どうしてがんばれたのですか。	・すきだから *人	・やるきがでたから *人	・まだがんばれたから *人 ・その他 *人
・いまはできないけど、できるようになりたいことはありますか。	・ある *人 ・ない *人	・さんすう *人 ・その他 *人	・とびばこ *人

1年生の様子を見ると、何に対しても楽しみながら活動に取り組む児童が多く見られ、調査の結果からも大変意欲的な様子が見て取れる。しかし児童の普段の生活を見ると、課題が終わらなくても休み時間に遊びに行ってしまうたり、いい加減にやって提出してしまったりする児童もあり、意識と実態に差が見られる。児童はみんな「できるようになりたい」という気持ちを持っていることが分かった。その気持ちを大切にしながら指導をしていく必要があると考える。

(3) 資料について (資料名「シロクマの クウ」小学校道徳読み物資料集 文部科学省)

本資料は、シロクマのクウが自立するために、自分でえさを取ることができるまでの様子を描いたものである。クウが自分の力でえさを取るまでの様子は、児童の自立に向けた自己実現の過程を映し出すものである。自立には、何度も粘り強く取り組み、努力し続ける忍耐力も求められる。児童がともすると母親に頼りがちになるクウに共感し、親に甘えようとする心と自立しようとする心との間の迷いを考えさせ、ねらいとする価値に迫りたい。

4 道徳ユニット



5 本時の学習

(1) 目標

自分で行わなければならないことは、最後まで粘り強く行おうとする心情を育てる。

(2) 自尊感情を育むのための手立て

- 共有体験を実感させるために、横に並んで前を見られるように円弧に座する学習形態を工夫する。 (共視)
- 友達の考えを説明し合うことで友達の気持ちに寄り添う体験をさせる。 (共感)
- おてつだいちょうに書かれたお家の人からの言葉を紹介し、実践への意欲を高める。 (共感)

(3) 準備・資料

挿絵 ワークシート 心の表情カード こころのノート おてつだいちょう

(4) 展開

場面	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点（◆準備を促して ※評価）
5	1 自分でやらなければならないことについて話し合う。 ○自分でやらなければならないことにはどんなことがありますか。	・毎日宿題をきちんとやること。 ・当番の仕事を忘れないでやる。 ・自分のお掃除場所がきれいになるように頑張る。	・このころのノートの「がんばってるね！」(P 18, 19) を基に、自分でやらなければならないことを具体的に思い起こさせ、ねらいとする価値への方向付けをする。
25	2 「シロクマの クウ」を読んで話し合う。 ○ うまくいかないけど「こんどこそ、ひとりでとってみせるよ」と言った時、クウはどんな気持ちだったでしょう。 ◎ 座りこんでしまった時、クウはどんなことを思ったでしょう。 ○ 一人で魚がとれたとき、クウはどんな気持ちだったでしょう。	・うまく魚がとれなくてくやしいなあ。 ・やってもらいたいけど自分でやらなくちゃいけないんだな。 ・絶対に一人をとるぞ！ ・魚がとれないと一人前にはなれないから頑張らなくちゃ。 ・一人でとって、お母さんを喜ばせたい。 ・あきらめようかな。だって寒いし、うでもいたいんだもん。 ・お母さんにやってもらいたい。だってうまくとれないから。 ・とれるようにな練習しなきゃ。だってこれであきらめたらいつまでたっても魚がとれるようにならない。 ・自分の力でとりたい。だってぼくも一人前になりたい。 ・自分一人の力でできて、うれしい。 ・あきらめないで頑張ってよかった。 ・お母さんも喜んでくれる。 ・もっと練習して一人前になれるように頑張ろう。	◆ 円弧に並んで前を見られる学習形態を工夫し、共有体験を実感させる。（共視） ・心の表情カードを使ってクウの気持ちを表情で表し、黒板に掲示することによって気持ちを視覚的に理解できるようにする。 ・ネームプレートを黒板に貼って自分の気持ちはどの考えに近いかを示させ、考えの類型化を図る。 ・ワークシートにクウの気持ちを書かせる際、「だって」の後にそう考えた理由を書かせることで、クウの気持ちを深く考えさせる。 ・クウの気持ちになかなか寄り添えない児童には、お母さんの表情にも着目させてクウの置かれた立場に立った考え方を引き出すようにする。 ◆ 考えの理由を表す気持ちが思いつかない児童には友達に説明してもらおうことでお互いの考えを共有できるようにする。（共感） ・ペアで話し合わせ、できた時のうれしい気持ち、自分の成長を実感する気持ち、次も実践したいという気持ちなど、多様な思いがあることに気付かせる。 ※ 自分で行わなければならないことは、最後まで粘り強く行うことの大切さに気付くことができる。（ワークシート・観察・発言）
10	3 最後まで粘り強く行って、よかったと思うことや、現在努力していることについて発表する。 ○ 最後まで頑張ってよかったことや、今頑張っていることに、どんなことがありますか。	・一輪車ができなかったけど、毎日練習したら乗れるようになった。 ・漢字を覚えられるか心配だったけど、繰り返し練習したら覚えられてうれしかった。 ・計算が速くできるようになった。	・難しかったが自分でやるべきことを自分一人の力でやり遂げた経験を想起させて話し合わせる。 ・思いつかない児童には導入時にこのころのノートを使って出された考えを基に自分の経験を考えるよう助言する。
5	4 教師の説話を聞く。		◆ おてつだい帳に書かれたお家の人からの言葉を紹介し、実践への意欲を高める。（共感）

1 主 題 友情〔2－（3）友情〕

2 資料名 「二わのことり」

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目2－（3）は「友達と仲よくし、助け合う」ことをねらいとしている。友達は、互いにかかわり合うことにより、心が通じ合い、そこに確かな友情が生まれる。それがあってこそ心の安定が図られ、楽しい生活が送れるのである。友情を育むためには、自分から仲よくしようと相手に働きかける気持ちや、相手の立場に立ってその心情を思い、温かい気持ちで接することが大切である。しかし1年生はまだ自己中心的であり、周りの人から大切にされたい気持ちが強くわがままになりがちである。そこで困っている友達がいれば助け、相手が喜ぶ様子を見て共に喜んだり、頑張る友達を励まし、その成果を共に喜び合ったりして、仲よく生活しようとする心情を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態

(平成25年11月7日調査 第1学年*人)

・ともだちにしてもらってうれしかったことはありますか。	・ある *人 ・ない *人	・にもつをはこんでくれた *人 ・ころんだときたすけてくれた *人	・いっしょにあそんでくれた *人 ・その他 *人
・じぶんがしたことでもだちによこばれたことはありますか。	・ある *人 ・ない *人	・ものをかしてあげた *人 ・ものをひろってあげた *人	・きゅうしよくのよういをしてあげた *人 ・その他 *人
・こまっているともだちがいたら、あなたはどうしますか。	・たすける *人 ・たすける わけ ・かわいそうだから *人	・はなしをきく *人 ・たいへんだから *人	・その他 *人

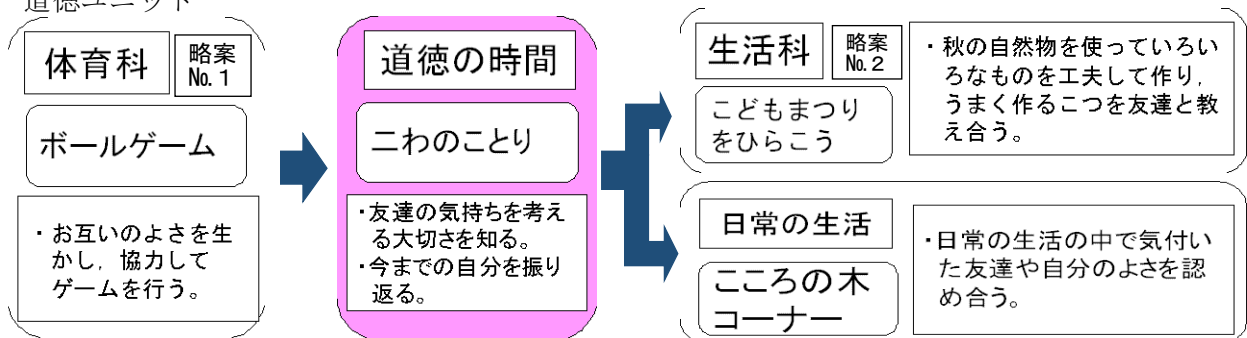
調査の結果から、ほとんどの児童が友達と助け合う体験をしていることが分かった。また、「困っている友達がいたらどうするか」という問いに対して積極的に関わる対応を取ると答えており、友達に対して親切な行動を取ろうとしていることが分かった。しかし普段の様子を見ると、声かけができる児童も見られるが、自分の興味・関心を優先してしまい見て見ぬふりをするなど、友達の立場に立って接しているとは言えず、意識と実態に差が見られる。

(3) 資料について（資料名「二わのことり」文溪堂 1ねんせいのどうとく）

みそさざいは山奥に住むやまがらから誕生日に招待されていたが、友達につられ近くの梅林に住むうぐいすの家へ音楽の稽古に行ってしまう。しかし、みそさざいは一人ぼっちのやまがらのことが気になり、そっと抜け出してやまがらの家へ行く。そしてやまがらはみそさざいが来てくれたことを心から喜ぶ、という話である。

登場する鳥たちの姿は、友達の気持ちを考えて迷ったり、つい周りに合わせて行動してしまったりと、児童の普段の生活に近く共感しやすい。また、みそさざいがやまがらを思いやる気持ちや行動を中心として描かれており、友情の温かさを感じ取ることができる資料である。資料提示の工夫や役割演技などを通し、登場人物に十分共感させることで友達の喜びが自分の喜びにつながることに気付かせ、ねらいとする価値に迫りたい。

4 道徳ユニット



5 本時の学習

(1) 目標

友達の気持ちを考えることの大切さに気付き、仲よく助け合っていこうとする心情を育てる。

(2) 自尊感情を育むのための手立て

- 共有体験を実感させるために、円弧で前を見られる学習形態を工夫する。 (共視)
- やまがらとみそさざいの役割演技を行い、友達を思いやる気持ちを実感させる。 (共感)
- 友達に関する歌を歌い、動作化することで児童の友達の気持ちを考えて行動しようとする気持ちを高める。 (共感)
- 児童の発言を受容的に受け止め、児童の自己受容を深める。 (自己受容)

(3) 準備・資料

挿絵 ペープサート やまがらからの手紙 ワークシート 心の表情カード

(4) 展開

時間	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点（ 指導上の留意点 ※評価）
5	1 友達との生活を振り返って話し合う。 ○ 友達がいてよかったなと思ったことはありますか。そのとき、どんな気持ちでしたか。	・ 転んだときに「大丈夫？」と言ってもらってうれしかった。 ・ 給食を友達と一緒に食べるとおいしく感じる。 ・ 一緒に遊んでいると楽しい。	・ 友達がいてよかったと思ったことを思い起こさせ、ねらいとする価値への方向付けをする。 ・ 発言が出にくい場合はアンケートや日頃の児童の観察の中から出来事を取り上げる。
25	2 「二わのことり」を読んで話し合う。 ○ どちらに行こうか迷っていたみそさざいは、どうしてうぐいすの方に行ったのでしょうか。 ○ うぐいすの家にいるみそさざいはどんなことを考えていたのでしょうか。 ◎ 喜んで迎えてくれたやまがらを見て、みそさざいはどう思いましたか。	・ やまがらの家は遠いし、ちょっと暗いんだよな。 ・ どっちも友達だけど、先にうぐいすと約束したからな。 ・ うぐいすの家は梅の花がきれいにさいているだろうな。 ・ 片方だけ行くのは悪いけど、みんなはうぐいすの家に行くからぼくもそうしよう。 ・ やまがらは誕生日なのに一人ぼっちなんだな。 ・ みんなうぐいすの方に来ちゃったからやまがらはさびしいだろうな。 ・ 歌の練習が終わったからぼくだけでも行こう。 ・ やっぱり来てよかった。 ・ 遅くなってごめんね。 ・ 遅くなったのに怒ってないんだね。 ・ やまがらが喜んでくれてうれしい。 ・ みんなにも声をかければよかったかな。	・ 場面絵とペープサートを使って読み聞かせ、対照的なうぐいすとやまがらの家の様子に気付けるようにする。 ◆ 円弧に並んで前を見られる学習形態を工夫し、共有体験を実感させる。（共視） ・ ペープサートのみそさざいを動かしながら問かけ、二人の友達から同時に誘われて悩みみそさざいの多様な思いを引き出す。 ・ 心の表情カードを使ってみそさざいややまがらの気持ちをカードで表し、黒板に掲示することによって二羽の気持ちを視覚的に理解できるようにする。 ・ みそさざいは、うぐいすの家でどんなことを考えていたかを想像させる。 ・ 誕生日に一人ぼっちで過ごすやまがらの挿絵を示し、やまがらの気持ちに寄り添えるように支援する。 ・ みそさざいの気持ちをワークシートに書かせることによって自分の考えを整理させ、友達を思いやる気持ちが自分の喜びにつながる場合があることに気付かせる。 ◆ 役割演技を行い、友達を思いやる気持ちを实感させる。（共感） ※ やまがらを思いやるみそさざいの気持ちを十分に考えることができる。（ワークシート・観察・発言）
10	3 今までの自分を振り返り友達関係について考え、話し合う。 ○ 友達のためを思ってきたことやこうすればよかったなと思うことはありますか。	・ 友達が一人でいたから「遊ぼう」って言った。 ・ 友達が転んだときに、保健室に連れて行ってあげた。 ・ けんかして、すぐ謝れなかった。 ・ グループには入れなかった友達がいたけど声をかけなかった。	・ 体験を発表し合うことで、助けられたり励まされたりした時のうれしい気持ちや相手が喜ぶのを見て自分もうれしくなった気持ちを思い出せるように支援する。 ※ 自分たちの友達関係について想起し、友達の気持ちを考えようとすることができる。（観察・発言）
5	4 「ともだちはいいもんだ」を全員で歌う。	・ みんなの顔がよく見えるよ。 ・ 手が温かいね。 ・ いい歌だね。 ・ みんなで歌うと楽しいね。	◆ 友達に関する歌を円になって歌いながら動作化することで歌詞の意味の理解を深めるとともに、児童の発言を受容的に受け止め、児童の自己受容感を高める。（共感・自己受容）

1 主 題 みんなのために〔4－（2）勤労〕

2 資料名 「もりの ゆうびん屋さん」

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目4－（2）は「働くことのよさを感じて、みんなのために働く」ことをねらいとしている。働くことに対して誇りや喜びを持ち、働くことの意義、自己の果たすべき役割について認識し、働く人々に関心を持って進んで社会に役立とうとする気持ちや態度の育成を意図している。低学年の発達の段階においては、働くことを楽しく感じている児童が多い。しかし、それは働くことのよさを感じてみんなのために働くというより、他の人より早くできればそれでいいという仕事ぶりで、自己満足を得るために仕事をしていると考えられる。これらのことから、働くことによって、他者の役に立つうれしさや、やりがい、自分の成長などを感じられるようにしながら、進んで働こうとする心情を育てていきたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態

(平成25年11月7日調査 第1学年*人)

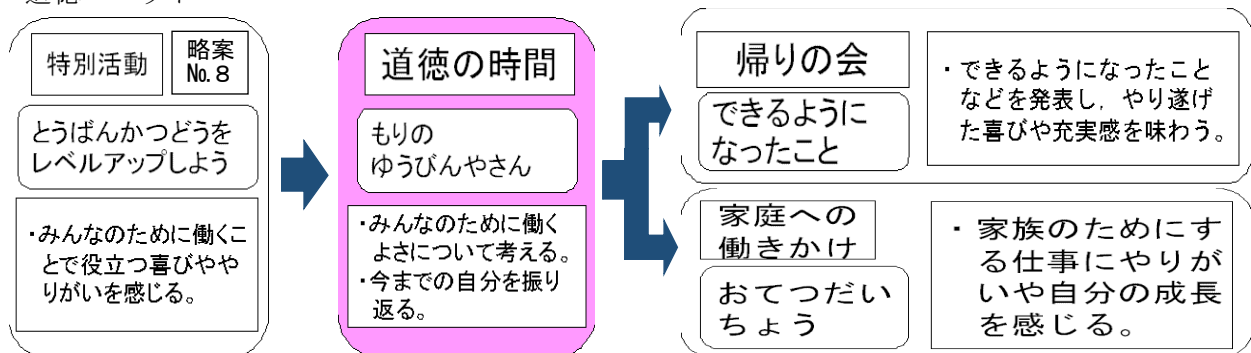
・あなたははたらくことが好きですか。	・はい *人 ・いいえ *人	・ほめられるから *人 ・その他 *人	・はたらくことが好きだから *人
・おてつだいをしてよかったとおもうことはありますか。	・ほめられた *人 ・よろこんでもらえた *人	・おかねがもらえたから *人 ・おかあさんがたずかるから *人	
・おてつだいはだれのためにするのだとおもいますか。	・みんなのため *人		

調査の結果、児童は働くことに大変意欲的であることが分かった。また、「手伝いは誰のためにやるか」という問いには「みんなのため」と答えている。しかし働く意義では自分がほめられるからという理由が多く、みんなのために働くことのよさに気付いている児童は少ない。

(3) 資料について（資料名「もりの ゆうびん屋さん」小学校道徳読み物資料集 文部科学省）

本資料は、みんなのために働くことの大切さを感じられるように構成している。郵便を配達するくまさんが、森のみんなのために、どんな天気の日でも毎日心を込めて郵便物を届ける。そんなくまさんに感謝する森のみんなの気持ちにくまさんが気付くという内容である。児童が一生懸命に働くくまさんに共感することで、勤労についての考えを深め、働くことのよさを感じる心を養っていきたい。

4 道徳ユニット



5 本時の学習

(1) 目標

役に立つうれしさを感じ、みんなのために進んで働こうとする心情を養う。

(2) 自尊感情を育むのための手立て

- 共有体験を実感させるために、資料提示は紙芝居や郵便ポストなどの実物を使って行い、円弧で前を見られる学習形態を工夫する。(共視・共感)

- 雪の日の場面では、窓を開けて寒さを実感する共有体験をさせる。(共感)

(3) 準備・資料

郵便ポスト 郵便バック 紙芝居 挿絵 こりすからの手紙 ワークシート 心の表情カード
こころのノート

(4) 展開

場面	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点（◆指導の観点※評価）
5	1 みんなのためにしている仕事について話し合う。 ○クラスでどんな仕事をしていますか。	・ランドセルを片付けたら職員室に行ってお手紙を取ってくるんだよ。 ・植木に水をあげたり金魚にえさをあげたりしてるよ。	・自分の係活動や当番活動の仕事内容について発表し合い ・頑張っているが時間内に終わらないなど、仕事の大変さにも触れておく。
25	2 「もりの ゆうびんやさん」を読んで話し合う。 （こりすの手紙の前で切る） ○雪の日、小包を見たくまさんはどんなことを考えたでしょう。 ◎ やぎじいさんに「ありがとう」と言われたくまさんはどんな気持ちだったでしょう。 ○こりすからのお手紙を読んだくまさんはどんなことを思ったでしょう。	・寒いから行きたくないな。 ・あんまりすごい雪だったら行けないから、明日にすればいい。 ・今日届けなきゃいけないお手紙があるかもしれないよ。 ・森のみんなはくまさんが来るのをとっても楽しみにしてるよ。行かないとがっかりさせちゃう。 ・みんな待ってるから行かなくちゃ。 ・やぎじいさん、うれしそうだな。 ・山道は大変だったけどやっぱり来てよかったな。 ・やぎじいさんの喜ぶ顔を見て、気持ちがポカポカしたよ。 ・明日も頑張って郵便配達をしよう。 ・みんなの喜ぶ顔がもっと見たいな。 ・大変な時もあるけどこれからも続けよう。 ・家で玄関を掃除していたら、おばあちゃんにほめられてうれしかったよ。 ・お風呂掃除をしたら、ピカピカになって気持ちよかったよ。 ・仕事をしたら「ありがとう」って言われて明日もやろうと思ったよ。	◆資料提示は紙芝居形式で行い、円弧で前を見られる学習形態を工夫して共有体験を実感させる。（共視） ・心の表情カードを使ってくまさんの気持ちをカードで表し、黒板に掲示することによって気持ちを視覚的に理解できるようにする。 ◆雪の日の場面のくまさんの気持ちを考える時は、児童の体調に配慮しながら窓を開けて寒さを実感する共有体験をさせる。（共感） ・みんなのために仕事をする気持ちや責任を持って仕事をする気持ちだけでなく、寒くて大変だからやりたくない気持ちなど、多様な考えを引き出して話し合えるよう補助発問をする。 ・やぎじいさんの喜ぶ気持ちに触れさせ、雪が降るの中、小包を届けたくまさんの気持ちをワークシートに記入させる。 ※役に立つうれしさを感じ、みんなのために進んで働くことに喜びを感じている。（観察・ワークシート・発表） ・家に帰った時にこりすの手紙があったことをここで児童に伝え、手紙を読んだくまさんの気持ちを考えさせる。 ◆郵便ポストにこりすの手紙を入れておき、くまさんを演じる教師がこりすの手紙を読む。（共視） ・学校や家庭などでみんなのために働いた生活経験を振り返り、こころのノート（P79）の「わたしのしごと」に記入させ、感じたことを再認識させる。 ・なかなか書けない児童には、当番活動や清掃活動で頑張っている様子を伝え、みんなの役に立っていることに気付かせる。 ・みんなのために働いている身近な人物について話し、働くことのよさを感じさせる。
10	3 自分の生活を振り返り、話し合う。 ○仕事をしてよかったな、うれしかったなと思ったのは、どんなときですか。	・家で玄関を掃除していたら、おばあちゃんにほめられてうれしかったよ。 ・お風呂掃除をしたら、ピカピカになって気持ちよかったよ。 ・仕事をしたら「ありがとう」って言われて明日もやろうと思ったよ。	・学校や家庭などでみんなのために働いた生活経験を振り返り、こころのノート（P79）の「わたしのしごと」に記入させ、感じたことを再認識させる。 ・なかなか書けない児童には、当番活動や清掃活動で頑張っている様子を伝え、みんなの役に立っていることに気付かせる。
5	4 教師の説話を聞く。		・みんなのために働いている身近な人物について話し、働くことのよさを感じさせる。

1 主 題 家族の人の願い〔4－（3）家族愛〕

2 資料名 「かやねずみの おかあさん」

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目4－（3）は「父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る」ことをねらいとしている。児童は、家族の細かな心遣いによって日々の生活ができているのであるが、それを実感として受け止めているとはいえない。むしろ、自分本位の考えで、世話されることを当然と受け止める児童が多い。そこで、励ます声かけだけでなく、叱責の根底にある愛情など、親の様々な愛情に気づかせ、感謝と敬愛の情を持たせ、家庭を大切にしようとする気持ちを養い、進んで家族の役に立とうとする態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態

(平成25年11月7日調査 第1学年*人)

・あなたはいえでてつだいをしていますか。 (複数回答)	・はい *人	・せたくものたたみ *人	・おふろあらい *人
・どんなきもちでしていますか。	・いいえ *人	・りょうりのてつだい *人	・ごみすて *人
・あなたはかぞくたいせつにされているとおもいますか。	・がんばるきもち *人	・たのしいきもち *人	・その他 *人
・どんなときにそうおもいますか。	・はい *人	・おせわをもらったとき *人	・ほめられたとき *人
	・いいえ *人	・うれしいとき、うまれたときから、しかるから、わからない 各 *人	・やさしいとき、
		・無答 *人	

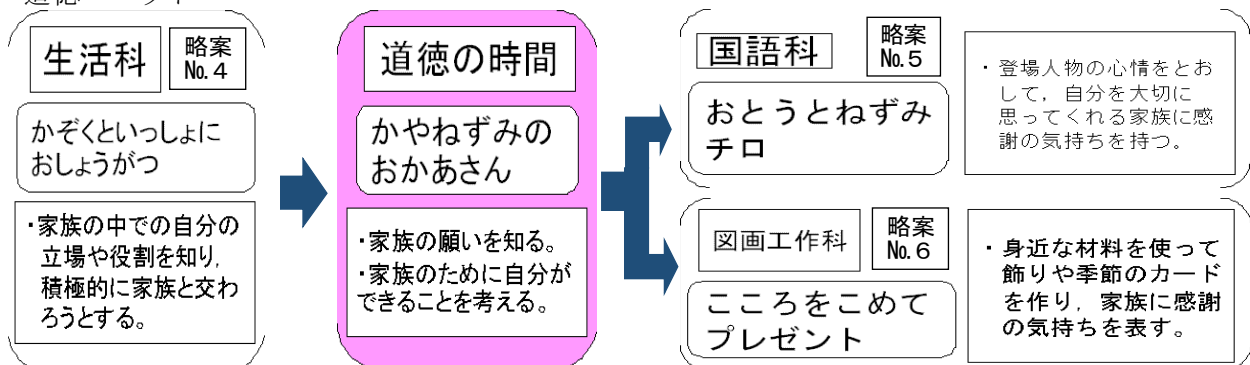
児童は7月からおてつだい帳を使って家庭で手伝いを実施していることもあり、家庭での手伝いは全員が実施していた。しかし手伝いの内容を見ると、分担された仕事をしている児童は少なく、言われたらその都度行い、自分の仕事として恒常的に責任を持っていない様子が見られる。

また「家族に大切にされているか」という問いでは、ほとんどの児童が「はい」と答えているが、理由は曖昧なものもあり、大切にされていることを実感していない様子も見られた。

(3) 資料について (資料名「かやねずみの おかあさん」東京書籍 みんななかよく 1年)

5匹の子どもを連れたかやねずみのお母さんが原っぱに出かける。原っぱでキツネに追われたお母さんは、子どもたちを助けるために葉ににおいを付けてキツネが自分の方へ来るようにする。キツネから逃れたお母さんが子どもたちを心配していると、子どもたちがお母さんの教えを守って助かり、その後、母親を助けるという内容である。母親の子どもたちへの愛情と、子どもたちが母親の教えを守ると同時に母親を助ける行為から、家族の一員としてできることは進んで行うことの大切さを理解できるようにしたい。

4 道徳ユニット



5 本時の学習

(1) 目標

父母など家族のやさしい心遣いや家族のための努力に対して感謝し、敬愛の心を持って進んで家族の役に立とうとする心情を育てる。

(2) 自尊感情を育むのための手立て

- 共有体験を実感させるために、資料提示は映像機器を使用し、円弧で前を見られる学習形態を工夫する。(共視・共感)
- 子どもたちの役割演技を行い、母親を思う子どもたちの行動について、自分のこととして考えられるようにする。(共感)
- 家族の願いが書かれた手紙を児童に読ませることで、自分は家族に大切にされているということを実感させる。(かけがえのない存在だと思ふ感情)

(3) 準備・資料

こころのノート 挿絵 パワーポイント テレビ ワークシート 心の表情カード お面
家族からの手紙

(4) 展開

時間	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点 (◆観察・発表 ※評価)
5	1 家族について感じていることを発表する。 ○家の人、どんなときに喜んだりしかったり心配したりしますか。	- 自分から進んで手伝いをした時に喜んでくれた。 - テストで百点取った時に喜んでくれる。 - 言われたのにやらなかったら怒られた。	こころのノートの「家ぞくが大すき」(P80, 81)を基に、家族で過ごした思い出を具体的に思い起こさせ、ねらいとする価値への方向付けをする。
25	2 「かやねずみの おかあさん」を読んで話し合う。 ○危険を知ったかやねずみのお母さんは、子どもたちにどのようなことを教え、どう行動しましたか。 ○キツネに追われたかやねずみのお母さんはどんな気持ちだったでしょう。 ◎お母さんを探しに出た子どもたちは、どんな気持ちだったでしょう。	- 自分のにおいを探して行くことを教えた。 - 子どもたちだけで巣に帰るように言った。 - 葉っぱににおいを付けて、キツネが自分の方に来るようにした。 - おかあさんは巣がある方と反対の方に行ったんじゃないかな。 - 子どもたちじゃなく、葉っぱに付いた自分のにおいを追ってほしい。 - 子どもたちは何とか逃げてほしい。 - 子どもたちを逃がすためなら自分が見つかってもしようがない。 - ぼくたちは助かったけどお母さんは大丈夫かな。 - キツネに捕まったらどうしよう。 - お母さんを助けよう。 - こんな時はお母さんはこうしなさいって言ってたよね。	◆資料提示は映像機器を使用し、円弧で前を見られる学習形態を工夫して共有体験を実感させる。(共視) - 心の表情カードを使ってお母さんの気持ちをカードで表し、黒板に掲示することによって気持ちを視覚的に理解できるようにする。 - 挿絵を示しながら、子どもたちの安全を守るための母親の心情について理解できるようにする。 - 母親の教えを忠実に守る子どもたちの様子にも注目させ、この後の子どもたちの行動につながるようにする。 - ワークシートにお母さんの気持ちを書かせることで、児童の考えを明確にさせる。 - キツネにも負けない母親の強さやたくましさは子どもたちを守るためであることに気付かせたい。 ◆お面を付けて役割演技を行い、母親を思う子どもたちの行動について、自分のこととして考えられるようにする。(共感) - 母親の教えを守ったら命が助かったことから、叱ったり注意したりすることには意味があることに気付かせる。 ※かやねずみのお母さんを気遣う行動から、家族の一員として役に立つことの大切さを感じている。(観察・ワークシート・発表)
10	3 自分の家族について話し合う。 ○家の人、みなさんのしたことを、どんな気持ちで喜んだりしかったりするのだと思いますか。	- ぼくがよくできたことがあると喜んでくれる。 - わたしのことを心配してくれてからしかる。 - 一人前になるようになって思ってるんじゃないかな。	- 家族が児童のしたことを喜んだりしかったりすることには、家族の願いが存在することに気付くように補助発問を工夫する。 ※家族が自分のことを思う気持ちや愛情について考えることができる。(観察・発表)
5	4 教師の説話を聞く。	- 家の人、助かるって言うから、これからはお手伝いを続けたい。 - 家族がわたしのことを大事に思ってくれてうれしい。	◆事前に「こんな人に育ってほしい」という家族の願いを児童に秘密で手紙に書いてもらい、ここで初めて児童に読ませることで、自分は家族に大切にされているということを実感させる。(かけがえのない存在)

No.	1	教科・領域	体 育	単 元	ボールゲーム	指導時期
本時の目標	みんながボールを取ったり投げたりできる規則を工夫し、きまりを守って楽しく運動することができる。					11月
本時の道徳教育	自己受容を育む 共有体験活動	自 尊 感 情 を 育 む 場 ・ 手 立 て				
		B 自己受容		S 自己有用感		
2－（3） 友 情	共視 共感	・ 粘り強く取り組む経験 ・ 友達や教師からの称賛 ・ 所属感を味わう経験		・ 他者へ貢献する意欲喚起の場 ・ 自己の理解者の存在の認識 ・ 友達や教師からの称賛		
主 な 学 習 活 動					自尊心を育む観点	
1 集合・整列し、あいさつをする。					・ 苦手や不得意なことにも最後まで取り組むことができるようにする。（B）	
2 準備運動をする。 ○ 体育当番が号令をかけ、準備運動をする。 ○ 持久走の練習のためグラウンドを走る。（5分間）						
3 通常のルールでドッジボールをする。（10分間）					・ 友達のためにできることや頑張れることを考え、実行できたことを認めるようにする。（S）	
4 みんながボールを取ったり投げたりできる牛渡ルールを決めてボール遊びをする。 ○ 牛渡ルールを決める。 牛渡ルール ・ 同じ人ばかりボールを取ったり投げたりしていないか考える。 ・ 友達にボールをパスした次にボールが取れたら自分で投げていい。 ・ ボールを1度もさわらない友達がいないようにする。 ○ 牛渡ルールを守ってドッジボールをする。					・ 自分たちで決まりを決めて活動し、それを守って行動できるようにする。（S） ・ 自分が頑張って取り組んできたことを認めてくれる人がいることに気付くことができるようにする。（S） ・ 児童の得意なことや頑張ったことの成果を発揮できる場を設定する。（B）	
5 学習のまとめをする。 ○ よかったところ、もっとこうするといいいところなどを発表し合う。						
6 整理運動をする。						
7 集合、あいさつをする。						

No.	2	教科・領域	生 活	単 元	子どもまつりをひらこう	指導時期
本時の目標		友達の工夫や努力したところを見つけて自分の活動に生かし、友達と協力して楽しく活動することができる。				11月
本時の道徳教育		自己受容を育む 共有体験活動	自 尊 感 情 を 育 む 場 ・ 手 立 て			
			B 自己受容		S 自己有用感	
2－（3） 友 情		共視 <u>共感</u>	・ 友達との学び合い ・ 友達や教師からの称賛		・ 友達との学び合い ・ 自己の理解者の存在の認識 ・ 準備、後片付け	
主 な 学 習 活 動					自尊心を育む観点	
1 本時の学習課題をつかむ。（2時間扱い） こどもまつりの じゅんぴを しよう。					・ 友達との学び合いなど、児童の得意なことや頑張ったことの成果を発揮できる場を設定する。 （B） ・ 自分が頑張って取り組んできたことを認めてくれる人がいることに気付くことができるようにする。 （S） ・ 新しくできるようになったり、繰り返し努力して取り組んだりしたことを認めるようにする。 （B） ・ 進んで片付けをし、みんなのために行動できたことを認めるようにする。 （S）	
2 グループごとの進み具合（○）と今日の目標（◎）を確認し、前時までに友達に教えてもらったことや協力し合ったことをワークシートに書いて発表する。 ○ 一人1枚は書いて、グループ内で発表する。 ○ 各グループで1人代表を決めて全体で発表する。						
3 発表を基に各グループの計画を修正し、グループごとに制作活動をする。						
4 本時のまとめをする。 ○ グループごとに頑張ったところや工夫したところを発表する。 ○ 友達の発表を聞いて、今度やってみたいことを発表する。						
5 後片付けをする。						

板書計画

こどもまつりの じゅんぴを しよう。





○ —

◎ —



○ —

◎ —



○ —

◎ —



○ —

◎ —



○ —

◎ —

おしえてもらったこと
できるようになったこと

月
日 ()

No.	3	教科・領域	学級活動（２）	単 元	当番活動をレベルアップしよう	指導時期
本時の目標	自分の仕事をより楽しく行えるように、活動内容を工夫することができる。					11月
本時の道徳教育	自己受容を育む 共有体験活動	自 尊 感 情 を 育 む 場 ・ 手 立 て				
		B 自己受容	S 自己有用感			
4－（２） 勤 労	共視 共感	・ 自己理解 ・ 粘り強く取り組む経験	・ 友達や教師からの称賛 ・ 他者へ貢献する意欲喚起の場 ・ 自己の理解者の存在の認識			
主 な 学 習 活 動					自尊感情を育む観点	
【事前の活動】 ・ アンケートで当番活動に対する意識や実施状況、内容、レベルアップは必要だと思いかについて実態を把握する。 ・ 教師がアンケート結果を集計する。					・ 自分のよいところだけでなく苦手や不得意なところも受け止め、自分らしさとして認められるようにする。 （B）	
【本時の活動】 ※ ワークシートあり 1 本時の課題を確認する。 とうばんかつどうを レベルアップ しよう。 2 各当番が活動してきたことを振り返る。 ○ 決まっている仕事内容を確認する。 3 当番活動をレベルアップする。 ○ みんながよりよい生活ができる工夫を考える。 4 学習のまとめをする。					・ 自分が頑張って取り組んできたことを認めてくれる人がいることに気付くことができるようにする。 （S） ・ 友達のためにできることや頑張れることを考えられたことを認めるようにする。 （S）	
【事後の活動】 ・ 各自、自分の目標に向かい、実施する。 ・ うまく実施できない児童には、個別に励ましたり、目標の修正について一緒に考えたりする。					・ 自分で決めたことは、最後まで取り組むことができるようにする。 （B）	

板書計画

とうばん
レベルアップさせよう

アンケートつけた
↓
できている人をほめる

とうばんかつどうを
レベルアップしよう。

月 日（ ）

No.	4	教科・領域	生 活	単 元	かぞくといっしょに おしょうがつ	指導時期
本時の目標	家庭生活を振り返り、自分でできることや家族が喜ぶことを見付け、家族の一員として自分の役割を果たそうとすることができる。					12月
本時の道徳教育	自己受容を育む 共有体験活動	自 尊 感 情 を 育 む 場 ・ 手 立 て				
		B 自己受容	S 自己有用感			
4－(3) 家族愛	共視 共感	- 自己の可能性の認知 - 粘り強く取り組む経験	- 自己有用性の認識 - 他者理解 - 家族の役に立つ喜び			
主 な 学 習 活 動					自尊心を育む観点	
1 本時の学習課題をつかむ。(2時間扱い) おしょうがつを むかえる じゅんぴを しよう。 ※ ワークシートあり 2 やってみたいと思うことを「ふゆやすみのすごしかたカード」に書き、計画を立てる。 ○ 新しい年を迎えるために、家族の一員としてしたいこと、できることを考え、児童の指名で発表し合う。 ○ 冬休みに家族で楽しみたいことを考え、児童の指名で発表し合う。 〈活動の観点〉 ・ 自分にできそうな手伝いに挑戦する。 ・ 家族と共に楽しみを見い出す。 3 「ふゆやすみのすごしかたカード」に書いたことを発表する。 ○ 自分にできそうな手伝いを発表する。 ○ 友達が発表した後、「きっとできる！」と声をかける。 4 学習のまとめをする。					・ 自分が得意なことを生かしたり、興味を持っていることについて友達に話したりすることができるようにする。(B) ・ 他者の発表を聞き、家庭での手伝いの実施状況を振り返ることで、自己有用性を認めることができる。(S) ・ 同じ事柄でも様々な考え方があることや、友達が努力して取り組んでいることに気付くことができるようにする。(S) ・ 自分で決めたことは最後まで取り組むことができるようにする。(B)	

【事後活動】

- ・ これまでの家庭での手伝いの経験を思い出させ、家族の一員として働くことに意欲を持たせる。
- ・ 「ふゆやすみのすごしかたカード」は冬休みの課題とし、結果はおてつだい帳に記入させる。
- ・ 冬休みが終わったら、自分の手伝いの反省をし、家族にコメントを書いてもらう。

板書計画

おしょうがつを むかえる
じゅんぴをしよう。



おしょうがつ

＝

あたらしいとし

できそうなおてつだい

たのしみなこと

おおそうじ ふゆやすみ おもちつき
 おとしだま おんせん



月
日
()

No.	5	教科・領域	国 語	単 元	おとうとねずみチロ	指導時期
本時の目標	チロの嬉しい気持ちやおばあちゃんに対する感謝の気持ちを，チロになったつもりで想像することができる。					12月
本時の道徳教育	自己受容を育む 共有体験活動	自 尊 感 情 を 育 む 場 ・ 手 立 て				
		B 自己受容		S 自己有用感		
4－（3） 家族愛		・ 友達や教師からの称賛 ・ 家族への感謝		・ 友達や教師からの称賛 ・ 他者理解		
主 な 学 習 活 動					自尊心を育む観点	
1 本時の学習課題をつかむ。 チロになって，おばあちゃんに つたえたいことを かんがえよう。					・ 友達とチロの気持ちを話し合うことで，同じ事柄でも様々な考え方があることに気付くことができるようにする。(S) ・ 頑張って読み取ったことの成果を発揮できる場を設定する。(B) ・ 友達が努力して取り組んだことに気付くことができるようにする。(S)	
2 おばあちゃんにお礼を言うときのチロの行動や会話から，チロの気持ちを想像する。 ○ チロの行動や会話が書かれている文を確認する。 ○ 行動や会話から，チロの気持ちを想像する。 ○ はじめに個人で考え，次にペアで話し合う。最後に全体で発表する。						
3 チロになったつもりで，おばあちゃんに伝えたいことをチロの日記に書き，発表する。 ○ ノートにチロの日記を書く。 ○ 日記に書いたことを発表する。						
4 本時のまとめをし，次時の学習内容を知る。						

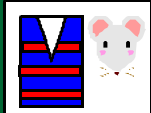
板書計画



(挿絵)

・ぼくにもくれて
・ありがとう。
・だいにする
・よ。
・うれしかった
・よ。

おばあちゃんに つた
えたいことを に つきに
かこう。



チロのこうどう

・チロがいったこと
・「ありがとう」
・「あ・り・が・と
・う」

(本文)

チロになって、おばあ
ちゃんに つたえたいこ
とを かんがえよう。

月 日 ()

No.	6	教科・領域	図 工	単 元	こころをこめてプレゼント	指導時期
本時の目標		いつもお世話になっている家族に，材料や作り方を工夫しながらメッセージカードを作ることができる。				12月
本時の道徳教育		自己受容を育む 共有体験活動	自 尊 感 情 を 育 む 場 ・ 手 立 て			
			B 自己受容		S 自己有用感	
4－（3） 家族愛		共視 共感	・家族の大切さ ・友達や教師からの称賛		・グループ活動での学び合い	
主 な 学 習 活 動					自尊心を育む観点	
1 本時の学習課題をつかむ。（2時間扱い） きせつの メッセージカードを おくろう。 ○ 家族からの手紙のお礼にプレゼントする季節のメッセージカードを誰にあげるか考え，相手を決める。 ○ どんなメッセージを書くか考え，メッセージの用紙に書く。					・家族の支えによって，楽しくよりよい生活が送れること，家族と助け合いながら生活していること気付くことができるようにする。（B）	
2 集めた材料の特徴を生かして作る。 ○ いくつかあるカードの見本をみて，作りたい形や色を決める。 ○ 季節の飾りの見本を見て，材料を選ぶ。 ○ グループの友達と飾り方などを教え合う。					・互いの得意なことや好きなことを認め合えるようにする。（B） ・友達と協力し合うことで，楽しくよりよい生活が送れること，様々な人と関わり合いながら生活していること気付くことができるようにする。（S）	
3 カードの飾りができあがったら，家族に向けたメッセージをカードに貼る。 ○ できた作品を手にとって写真を撮ってもらう。 ○ 作品を家庭に持ち帰り，相手に手渡しをする。						
4 学習のまとめ，後片付けをする。					・進んで片付けをし，みんなのために行動できたことを認めるようにする。（S）	

【事後活動】

- ・ガードを渡す時に、「こういうところを工夫した」と伝えさせることで、家庭での称賛をしやすくする。
- ・プレゼントを渡した時の相手の反応と、そのときの気持ちを発表し合う。

板書計画

きせつの メッセージ
カードを おくろう。

かぞく

おかあさん
おばあちゃん

おじいちゃん
かぞくみんな

とびだす
カード

まどつき
カード




月
日
()

No.	7	教科・領域	学級活動（２）	単 元	なわとび記録会の 目標を決めよう	指導時期
本時の目標		なわとび大会に向けて自分に合ったよりよい練習方法などについて考え、自分の目標を決めることができる。				1月
本時の道徳教育		自己受容を育む 共有体験活動	自 尊 感 情 を 育 む 場 ・ 手 立 て			
			B 自己受容		S 自己有用感	
1－（２） 勤勉努力		共視・共感	・ 友達や教師からの承認 ・ 自己評価		・ 友達や教師からの承認 ・ 他者評価	
主 な 学 習 活 動					自尊感情を育む観点	
【事前の活動】 ・ 教師が児童のなわとびカードを集計し、跳べる技と回数を把握しておく。 ----- 【本時の活動】 ※ ワークシートあり 1 本時の課題を確認する。 なわとびきろくかいの もくひょうを きめよう。 2 なわとび大会の目標を決める。 ○ 今、自分ができる技を確認する。 ○ 記録を更新する方法を話し合う。 ・ 練習方法（いつ、どのくらい） ・ 数値目標 ○ 今跳べる回数より少し多くしたり、もう少しでできそうな技に挑戦したりする数値目標にする。 3 自分の目標を発表する。 ○ 発表をした後、「きっとできる！」と声をかける。 ○ 全員が目標を発表し終わったら感想を発表する。 ○ 友達の発表を聞いて、目標を修正したい児童はする。 4 学習のまとめをする。 ----- 【事後の活動】 ・ 各自、自分の目標に向かい、実施する。					・ 自分が頑張って取り組んできたことを認めてくれる人がいることに気付くことができるようにする。（S） -----	
					・ 互いの得意なことや好きなことを認めあえるようにする。（B） ・ 同じ事柄でも様々な考え方があることや、友達が努力して取り組んでいることに気付くことができるようにする。（S） ・ 自分たちで決まりを決めて活動し、それを守って行動できるようにする。（S）	
					・ 自分で決めたことは最後まで取り組むことができるようにする。（B）	

板書計画

なわとびきろく会の
目ひょうを きめよう。



れんしゅうする ほうほう

いつ

どのくらい

くふうすること

div style="margin-bottom: 10px;">月

日（ ）

まえとび

うしろとび

かけ足とび

かた足とび

あやとび

こうさとび

にじゅうとび

板書計画

ともだちと おしえあいながら できるわざを
ふやして ころがり名人になろう！

ステージ

ブリッジ

足うち
かえるの

そくてん

うさぎとび

ころがり
よこ

まえ・うしろ
ころがり

月

日 ()

きまり

- ・ともだちがマットの上にいるときはまつ。
- ・おわたたらつぎの人にあいずをする。

ろくぼくさかだち

おもったこと

No.		教科・領域		単 元		指導時期
本時の目標						月
本時の道徳教育	自己受容を育む 共有体験活動	自 尊 感 情 を 育 む 場 ・ 手 立 て				
		B 自己受容		S 自己有用感		
－ ()	共視・共感					
主 な 学 習 活 動					自尊感情を育む観点	

板書計画

		月
		日 ()

なわとびきろくかいの 目ひょうを
きめよう。

1ねん

1 とべる わざに ○をつけましょう。

りょうあしとび かけあしとび かたあしとび (まえ・うしろ)

あやとび (まえ・うしろ) こうさとび (まえ・うしろ)

にじゅうとび

2 きろくを のばしたいわざを きめましょう。

ポイント

もうすこしで
できそうな わざ

なにを

なんかい

かい

3 れんしゅうほうほうを かんがえましょう。

いつ

どのくらい

じょうたつするために くふうすること



3 きょうの はなしあいでおもったことを かきましょう。



とうばんかつどうをレベルアップしよう。

1ねん

1 やったことのある とうばんに ○をつけましょう。

てがみ おんがく ほけん せいけつ はいたつ いきもの こくぼん
がくしゅう くつ・かさ でんき・まど たいいく せいとん



2 とうばんかつどうの レベルアップの ほうほうを かんがえましょう。

みんなが たのしく
せいかつできる くふう



とうばん

くふう

とうばん

くふう

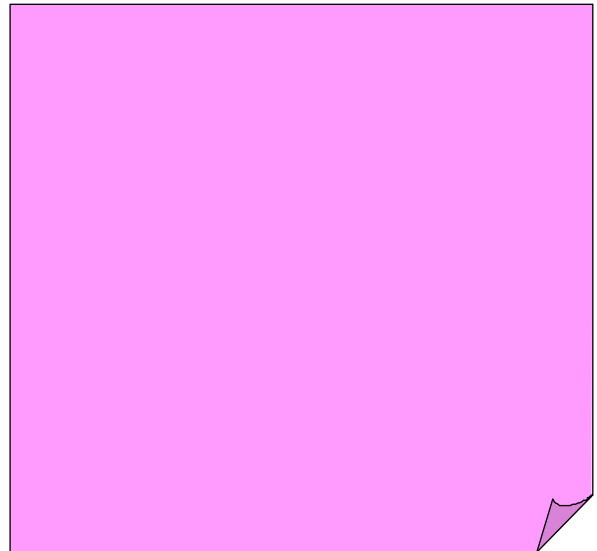
とうばん

くふう

3 これからの とうばんかつどうで じぶんがくふうすることや たのしみなことを かきましょう。

くふうすること

たのしみなこと





ふゆやすみの すごしかた カード



なまえ

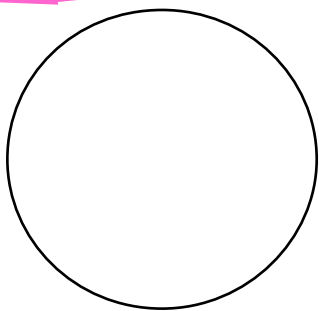
おしょうがつをむかえるじゅんびをしよう。

できそうなお手つだい

たのしくすごすために



1ねんせいの ふゆやすみは これに ちょうせん！



おうちの人から

せんせいから

いろいろなころがりあそびに
ちょうせんしよう。

1ねん

1 できるころがりあそびに ○をつけましょう。

まえころがり うしろころがり よこころがり そくてん

かえるの足うち うさぎとび フリッジ 足ひらきころがり

さかだち

2 できるようになりたいころがりあそびを きめましょう。

ポイント

もうすこしで
できそうな
ころがりあそび



3 れんしゅうほうほうを しゅざいしましょう。

だれに

やりかたのポイント

だれに

やりかたのポイント

3 マットころがりあそびをやって おもったことを かきましょう。

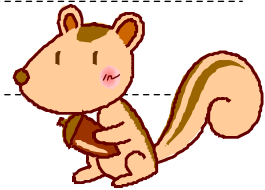
Four horizontal dashed lines for writing on a pink background.



さんにおしえてもらったよ!

Large empty rounded rectangle for drawing.

Four horizontal dashed lines for writing.



Circle for the month.

月

Circle for the day.

日

なまえ

ねん



うまかったよ!



Large empty rounded rectangle for drawing.

Four horizontal dashed lines for writing.



Circle for the month.

月

Circle for the day.

日

なまえ

ねん

できるようになったこと

- きょう、べんきょうしたり かつどう
したり したなかで、できるようになっ
たことや わかったことを はっぴょう
しましょう。

わかりやすく はなすための キーワード

いつ

どこで

だれが

なにを

どうした

おもったこと・かんそう

おそうじのじかんに 3ねんせい
きょうしつで まどそうじを しまし
た。 いえで やったときは、あまりき
れいに ならなかったけど がっこう
でしんぶんしを つかってふいたら、
とても きれいに なりました。
いえでもやってみたいです。

